

文部科学省 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

外部評価報告(26年度)

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

文部科学省

—がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン—

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

外部評価報告(26年度)

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

平成26年度《次代を担う研究者・医療人養成プラン》外部評価について

1. 外部評価実施方針について

- ・ 26年度 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- ・ 評価委員については、3名の委員を選任する。
- ・ 外部評価項目については、事業評価ガイドライン（24.3.29 文科省 養成推進委員会）の評価項目を基本として、連携する各大学により設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった達成目標とする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 (3頁～5頁) のとおり

3. 「次代を担う研究者・医療人養成プラン」概要について

「連携する大学」、「取組の概要」、「事業の目的・必要性」、「補助事業の実績」、「補助事業に係る具体的な成果」 (6頁～8頁) のとおり

4. 24年度取組状況

「26年度取組状況等」 (9頁～39頁) のとおり

(資料1)	入学目標人数・入学者数一覧	(40頁) のとおり
(資料2)	入学人員 (全国平均・京大グループ)	(41頁) のとおり
(資料3)	資格取得者数等	(42頁) のとおり
(資料4)	がんプロ学生調査 (要望・改善点)	(43頁～45頁) のとおり
(資料5)	がんに特化した講座の設置状況	(46頁) のとおり
(資料6)	事業推進委員会議事録 (外部評価の実施)	(47頁～48頁) のとおり
(資料7)	24年度から新たに導入された医療チーム 事業開始前から設置されていた医療チーム	(49頁～50頁) のとおり
(資料8)	キャンサーボードの体制	(51頁) のとおり
(資料9)	研修会、セミナー等実施一覧	(52頁) のとおり

(資料 10)	海外学会、雑誌等への英文発表一覧	(53 頁～ 56 頁) のとおり
(資料 10-2)	国内学会、雑誌等への和文発表一覧	(57 頁～ 60 頁) のとおり
(資料 11)	海外学会・シンポジウム等参加状況	(61 頁～ 62 頁) のとおり
(資料 11-2)	国内学会・シンポジウム等参加、教育研修・研究施設視察参加状況	(63 頁～ 70 頁) のとおり
(資料 12)	プロトコル作成への関与一覧	(71 頁～ 72 頁) のとおり

5. 評価について

「評価結果表」(評価結果・講評)	(73 頁～ 75 頁) のとおり
------------------	--------------------

6. 外部評価委員について

青森県立中央病院 院長 吉田 茂昭
名古屋大学 附属病院化学療法部教授 安藤 雄一
元京都新聞論説委員 川端 眞一

7. 評価実施日程について

27.3.11～3.19 評価委員による評価実施 (評価項目毎の採点および講評)

「外部評価項目」

共通達成目標 1

1. 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、
2. がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか
3. コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか、
4. がんの特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は、
5. 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数、
6. 外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、

共通達成目標 2

7. 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、26年度の新たな整備数、
8. 多職種が共同で参加できるがんセンターボード等の整備数、26年度の新たな導入数、
9. 医療チーム、がんセンターボードの質の向上のための取組実績、
10. コース履修者の医療チーム、がんセンターボードへの参加人数、開催数、期間等、
11. 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
12. 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者、
13. 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）
14. 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、

達成目標 3 国際交流

15. コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、
16. コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、
17. 国際交流プログラムの実施数、
18. 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、
19. コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、

達成目標 3 連携大学間・職種間連携

20. 連携 5 大学による「合同フォーラム」の開催、26 年度の取組み参加状況、
21. 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、
22. 連携 5 大学 コース履修者の e-learning 受講登録率、
23. 新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて、
24. 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、

達成目標 3 教育改革

25. がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、
26. 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、
27. がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、
28. 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、

達成目標 3 地域貢献

29. 地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、

30. 市民公開講座等一般向け講演会の開催数、
31. インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、
32. 各本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、
33. 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、
34. I Tを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、
35. テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、
36. がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、

達成目標 3 研究者養成

37. コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数、
38. 国際学会、英文誌への研究論文発表数、
39. 学会への研究論文の発表推進への取組み、
40. 先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、
41. がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、
42. がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、
43. 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「次代を担う研究者・医療人養成プラン」について

連携する大学

京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学

事業の概要

本事業は、平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで選定された京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学における次代を担うがん研究者・医療人養成プランに関する取組である。このプランにおいては先端のがん研究者の養成と地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成に重点を置く。前者では次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成し、後者では地域のがん診療拠点と連携して、腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線治療医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を養成する。先端研究施設、がんセンター等での分野横断的研究、集学的研究、腫瘍薬学研究等の基盤を整備、同時に集学的医療、全人的医療プログラムの充実、がん教育の推進、5大学間の人材交流を図り、人材養成とがん医療の発展を目指すものである。

事業の目的・必要性

(1) 全体

本補助事業の全体の目的は、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤をさらに充実させながら、大学院コースにおける基礎研究能力、臨床研究能力の向上、がん専門医療人教育プログラムの多様化と拡充、地域がん診療拠点病院などとの連携強化ならびに問題点の改善を図り、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次代のがん研究、がん診療を担う人材の養成に資するため、中長期的視野に立って教育基盤の整備を行うことにある。今後のがん医療の発展には腫瘍学を深く理解し、斬新な発想で画期的な医療技術や診断治療法を開発できる人材が欠かせないが、そのためには高度な基礎研究能力、学際的研究能力を備えた先端研究者を養成することが求められている。具体的には、手術、放射線治療の領域では新しい治療機器や治療方法の開発、薬物療法、婦人科がんの領域では新規医薬品、バイオマーカーの開発、臨床腫瘍薬学分野ではトランスレーショナルリサーチの推進、がん専門薬剤師には国際試験、臨床研究の実施、医学物理学分野では高精度放射線治療の実施、推進と次世代型の放射線治療システムの開発、がんリハビリテーションの領域では臨床エビデンスの創生が必要とされており、これらを担う人材の養成が求められている。

地域がん医療貢献に関しては、集学的医療、全人的医療を実践する優れた腫瘍内科医、放射線治療医、緩和医療医の養成が急務であり、疾病頻度の急激な増加に伴い乳腺専門医や婦人科腫瘍専門医の養成は社会的な要請である。化学療法、支持療法、緩和療法、チーム医療を高度に展開できるがん専門薬剤師、がん専門看護師の養成も重要課題である。さらに、国際的視野をもったがん専門医療人が不足しており、その養成も強く望まれている。京都大学、京都薬科大学はがん研究者の養成に、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学は地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成により重きをおくが、

互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努める。

また、平成19年度からのがんプロフェッショナル養成プランとして実施し、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成プログラムにおける取組の充実・発展を図り、本取組を次代を担うがん研究者・医療人養成プランとして拡充することにより、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが、本補助事業の目的である。

(2) 26年度

本補助事業の本年度の目的は、上記の次世代のがん研究者、がん診における人材養成基盤の強化を達成するため、がんセンター等での分野横断的、集学的、チーム医療の実践教育の推進、国際的視野を持ったがん研究者・がん専門医療人養成のためのグローバル教育の推進、地域のがん診療拠点と連携したがん教育の推進に重点を置き、必要な教員、事務補佐員の雇用、教育研究プログラムの充実・発展、教材、各種マニュアル等教育研究物品の購入、また、教育・研修プログラムの調査・実施、国際教育プログラムの実施、専用ホームページによる広報活動の充実、一般市民・地方医療機関・関連企業等を対象とした各種研修会、セミナーの実施、および、本事業全体を統括する事業推進協議会の定期的な開催により、基本計画を協議、決定、評価を行い、各事業の円滑な遂行を図ることである。

26年度事業内容

- ① 本事業の遂行に必要な教員及び事務職員を雇用し、次代を担う国際的がん研究者、医療人養成の体制を整備し、26年度がんプロ履修生を募集するとともに、各大学・各コースの養成指導を推進させた。
- ② 本事業全体を統括する運営委員会を開催し、事業の基本方針・基本計画等を協議・決定するとともに、必要に応じて、連携5大学のみならず、連携病院、学生の評価を取り入れ、また、外部有識者による外部評価を実施した。
- ③ 研究者養成では、新しい治療機器や治療方法の開発、新規医薬品・バイオマーカーの開発、トランスレーショナルリサーチの推進、国際試験、臨床研究の実施、高精度放射線治療の実施、放射線治療システムの開発、臨床エビデンスの創生などの指導、医療人養成では、地域医療機関とも連携した医療人養成プログラムを充実・発展させた。
- ④ 各大学において、教材、各種マニュアル等教育研究用物品等を購入し、教育・研究環境の整備充実を図った。
- ⑤ がん研究者、医療人養成のため、研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習会への参加を推進させ、また、E-learning システムの活用を推進させた。
- ⑥ 海外の先端的がん研究施設や教育研修プロジェクトに人的派遣を行い、国際活動、国際貢献の出来る研究者、医療人養成を推進させた。
- ⑦ 専用ホームページを公開し、社会への積極的な情報公開を行った。
- ⑧ 一般市民、連携病院、地域医療機関、関連企業等を対象とした包括的ながん医療フォーラムや公開講座、セミナー等を開催するほか、各種研修会、研究会等を実施した。

なお、京都大学、京都薬科大学においては、がん研究者養成に重点を置き、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学においては、がん医療人養成に重点を置くが、互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努めた。

補助事業に係る具体的な成果

- ① 本事業の遂行に必要な教員の雇用により、高度な臨床の現場で診療と同時に学生の教育に注力することができ、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤の充実を図ることができた。事務・事務補佐員の雇用により、多様で専門性が要求される本事業の運営を図ることができた。
- ② 連携大学による共同の「運営委員会」を設置することにより、本補助事業の運営方針についての責任の所在を明確し、連携大学に担当コーディネーターを置くことにより、より細やかな体制を構築することができた。また、外部有識者による外部評価の実施により、P D C Aサイクルによる事業推進体制を構築することができた。
- ③ 本プログラムにより、新しい治療機器や治療方法の開発、新規医薬品・バイオマーカーの開発、トランスレーショナルリサーチの推進、国際試験、臨床研究の実施、高精度放射線治療の実施、放射線治療システムの開発、臨床エビデンスの創生に貢献できるがん研究者養成が図られ、また、地域医療機関とも連携して最適な治療を検討できる専門医療人養成が可能となった。
- ④ 各大学の個性や特色、得意分野に応じた教材、各種マニュアル等教育研究用物品の整備により、実習・研究情報の共有化を図るとともに、教育・研究環境の基盤整備の充実が図られ、新しいがん医療を遂行できる腫瘍外科医・内科医、放射線治療医、がん専門薬剤師、看護師の養成が可能となった。
- ⑤ 研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習会への参加を推進させ、また、E-learningシステムの活用を推進させることにより、次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが可能となった。
- ⑥ 国際的視野を持ったがん専門医療人が不足し、その養成が強く望まれており、本プログラムでは、海外の先端のがん研究施設との交流、教育研修プロジェクトへの参加、海外腫瘍学会での論文発表を推進させ、海外最先端がん研究、最先端がん医療技術において国際貢献できるがん研究者、医療人への養成が可能となった。
- ⑦ ホームページの公開により本事業を広く国民に周知することができた。
- ⑧ 各種のフォーラム、公開講座、セミナー、研修会、研究会等を開催することにより、関連病院、地域医療機関及び関連企業等でのがん医療従事者等に対し本事業の取り組みに対する理解を深めることができるとともに、今後の本事業のプログラムの方向性についての認識を持つことができた。また、連携する5大学間での共同開催を推進させることにより連携を強化することができた。

「中間および26年度 取組状況等」

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間で「専門医療人・受入目標人数」 74名、「研究者養成・受入目標人数」 104名、合計 178名を目標とする。 (「資料1」のとおり)</p> <p>中間取り組み状況 (24.4.1～26.10.31)</p> <p>○ 拠点全体における、入学目標数(5年間・178名)に対して、24・25・26年度の3年間で、合計入学者数151名を達成しており、事業期間中に確実に入学目標数を超えることは間違いなく、目標を上回る効果・成果を得られる見込みである。</p> <p>○ 「専門医療人養成」では、24年度入学者数 13名、25年度入学者数 8名、26年度入学者数 10名、3年間合計 31名(目標74名)となっており、27年度、28年度の取り組みを強化しなければならない。</p> <p>○ 「研究者養成」では、104名養成の目標に対して、24年度入学者 44名、25年度入学者 31名、26年度入学 45名、3年間で既に目標とする入学者数104名を上回る 120名を達成している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度においても、新入生オリエンテーションにおいて、がん教育の重要性を説明のうえ、履修生の獲得に努め、受入目標人数 19名を上回る入学者数 44名を達成した。 なお、京都大学では、24年度、受入目標人数12名に対して入学者36名、25年度、受入目標人数16名に対して入学者29名を達成している。 (「資料1」のとおり)</p> <p>グループ全体の入学者達成率においても、26年度全国平均76%を上回る125%を達成している。 (「資料2」のとおり)</p> <p>三重大学: 【医師養成コース】がんセンターと大学院のホームページで案内すると共にがんチーム医療研究会でがんブロのパンフレットを配布している。三重県医師会会報にも広告を掲載しPRを行っている。また大学院受験者に個別にがんブロの説明案内を行っている。 平成26年度に腫瘍内科専門医養成コース2名、放射線腫瘍医養成コース1名、乳腺外科専門医養成コース1名、婦人科がん治療専門医養成コース1名が入学した。平成27年度には腫瘍内科専門医養成コース1名、放射線腫瘍医養成コース1名の入学を予定している。</p> <p>【薬剤師養成コース】がん医療について興味のある当院在職中の薬剤部職員に入学を促している。</p> <p>【看護師養成コース】がん看護および緩和医療関連学会や三重県内のがん看護関係者が集まる機会にがん看護コースについてのPRを行っている。 平成26年度に3名が入学した。平成27年度には3名の入学を予定している。</p> <p>滋賀医科大学: 各コースの受入れ目標数に関して、一部のコースについては受入れ目標人数を越す者があるが、滋賀医科大学のがんブロコース全体として充足率を満たしていないため、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行い、学生の入学を促進している。 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース:2名 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース:5名(平成26年度1名入学) 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:1名 地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース:1名</p> <p>大阪医科大学: 受け入れ目標人数を充足するためにホームページや大学院案内などでの広報活動を実施している。</p> <p>京都薬科大学: 大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学意義、「臨床腫瘍薬学」の重要性、がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース(がんブロコース)等の説明を行い、大学院進学を促進している。</p>	<p>(資料1) 「募集・受入目標・入学人数」</p> <p>(資料2) 「入学実績(全国平均比較)」</p>
2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか、	<p>中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>24年度・専門医資格取得者数 22名(うち旧がんブロ12名)、25年度・専門医資格取得者数 36名(うち旧がんブロ12名)、26年度(26.4.1～26.10.31)・専門医資格取得者数 10名(うち旧がんブロ1名)、合計 68名(うち旧がんブロ25名)が専門医の資格を取得。 今後も、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行うとともに、がんブロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し認定医取得を推進させる。</p>	<p>(資料3) 「資格取得者数一覧」</p>

2	<p>がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取り組みがなされているか、</p>	<p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 専門資格取得のため、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し認定医取得を推進している。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース)がん薬物療法専門医取得または更新の単位となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会参加・発表のサポートを行った。その他、Best of ASCOや癌治療学会など、がん薬物療法の知識取得に役立つセミナーなどに派遣した。がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血管、呼吸器、消化管、乳房領域の薬物療法が学会認定の指導医のもとで研修出来るプログラムを継続して施行している。また受験のために必須となる病歴要約も専門医の指導教官が添削・指導している。</p> <p>(医学物理コース)専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。また、専門資格取得のための講習会(京都放射線腫瘍研究会)を実施した。平成24年度～平成26年度(10月31日まで)の実績:医学物理士認定(3名)、医学物理士認定試験合格(1名)</p> <p>(放射線治療医コース)日本医学放射線学会だけでなく、日本がん治療学会、日本がん分子標的学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会、など、がん治療の知識取得に役立つ国内外学会での発表の機会を設けた。日本がん分子標的学会学術集会では、がんプロコース学生の若手優秀演題賞の受賞があった。</p> <p>(婦人科コース)コース参加の大学院生には婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において症例の経験を積ませている。さらに、学会発表や論文執筆の指導を行っている。</p> <p>(薬剤師コース)日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取り組みを行っている。 また、セミナーを定期的に開催し、最新の文献紹介を通して、がん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得する機会を定期的に設けている。</p> <p>(手術療法コース)領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・講演を実施した。</p> <p>三重大学 【医師養成コース】がん専門資格試験の受験に必要な各がん種別の症例の割り当てを適宜実施している。 平成26年度に乳腺外科専門医養成コース修了者1名が乳腺専門医の資格を取得した。 【薬剤師養成コース】がん専門薬剤師の資格取得に向け、がん医療に関する臨床経験を積むための業務配属を行っている。 【看護師養成コース】当コースを修了し、資格取得準備段階の看護師を対象に三重がん看護専門看護師会とともに学習会を通じた支援を行っている。 平成26年度に4名ががん看護専門看護師の資格を取得した。三重専門看護師会との共同勉強会(1回/月平均)を行い、大学院生も現役専門看護師とともに学ぶ機会を得ている。</p> <p>滋賀医科大学 履修案内において、それぞれのコースに在籍することで、取得が見込まれる学会資格等の概要を掲載しており、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載している。</p> <p>大阪医科大学 専門的知識向上に向けて、がんセンター主催で外部講師による講演会(6/19・11/28)、研修会(9/30・10/9)を行った。また、講演会(2/3・3/10)を予定している。</p> <p>京都薬科大学 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。資格取得条件である「一般社団法人 日本医療薬学会」(5年間の入会が必要)への入会を促しており、在籍者4名全員が当該学会に入会している。</p>	<p>(資料3) 「資格取得者数一覧」</p>
3	<p>コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか、</p>	<p>中間評価(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>京都大学では、毎年、がんプロ履修生全員に「がんプロ学生調査(要望・改善点)」アンケート調査を行っており、その調査結果については、毎年度「外部評価報告書」および「ホームページ」において公表している。 また、25年度外部評価より、調査により判明した要望や改善点については、要望等を行ったがんプロ履修生自身や他の履修生も理解できるよう、同じく、「外部評価報告書」および「ホームページ」において、要望、改善点に対する事業方針を回答し公表することとした。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行うなど、履修生の満足度を満たす取組を行ない評価報告としてHPIにおいても公表している。また、質問・改善要望についても、その回答を同じく公表している。 (履修生より「国内外学会等派遣助成」、「5大学連携・海外合同教育セミナー」について、今後も、さらに拡大して続けてもらいたいとの回答を得ている。)</p>	<p>京都大学： (資料4) 「がんプロ学生調査(要望・改善点)」のとおり</p>

3	<p>コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか、</p>	<p>また、各コースにおいても、月2回程度定期ミーティングを行い、情報交換、研究計画進行状況のチェック、アドバイス等を行っている。また国際誌に掲載されたがんリハビリテーション関連の論文を抄読し、知識をupdateするよう務めている。がん関連の学会に積極的に派遣し、情報収集を行わせている。(リハビリコース)</p> <p>問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。(薬剤師コース)</p> <p>希望に添った研究テーマ、国際発表機会の提供。講座内での定期的な進捗報告会の開催。(放射線治療コース)</p> <p>研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。(婦人科コース)</p> <p>学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。(手術療法コース)</p> <p>医学物理カンファレンスを、毎週実施している。(がんプロ学生参加)(物理コース)</p> <p>がんプロ教育外来における診療実習終了時に、各履修生に対して日々のフィードバックを行っている。診療実習を通して、患者との医療コミュニケーションにおける指導を行っている。2~3ヶ月毎に受講者から自己評価シートを提出してもらい、その内容に応じて個人面談を行っている。(インテンシブ・臨床試験コース)</p> <p>三重大学 【医師養成コース】平成26年度に在学生に対して実施したアンケートでは、特に講義の面でも他大学の講義がe-learningで受けられること、がん診療に関連した講義の情報が得やすくて講義が取りやすかった、臨床的なスキルを身につける教育やtumor board 大学院セミナー等の知識を習得する教育内容にも満足度が高かった。</p> <p>【看護師養成コース】教育内容については満足度は高く、学内外の講師や実際にがん看護専門看護師として活躍する人からの講義は、学生が将来像を描く上でも有効であった。また、当該専攻は在職する社会人学生が多く、仕事との両立が厳しい反面、大学院で学んだことを即、実践に反映できるという点で満足度が高かった。</p> <p>滋賀医科大学： コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。</p> <p>大阪医科大学： 化学療法専門医養成コースでは、カンファレンスや症例検討会において、履修生へのマンツーマン指導が行われている。</p> <p>京都薬科大学 平成25年度に引き続き、研究環境整備に努めるほか、学長をはじめ、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的実施している。月1回程度</p>	<p>京都大学： (資料4) 「がんプロ学生調査(要望・改善点)」のとおり</p>
4	<p>がんの特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は、</p>	<p>中間評価(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>申請時に計画された、京都大学、三重大学、滋賀医科大学における、がんの特化された3講座は、予定どおり設置(滋賀医科大学は、25年度設置予定を前倒しで、24年度10月に設置)され、活発な教育・研究が行われている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座(分野)」を平成24年9月に設置、がんプロ経費にて平成24年12月より新規助教を採用、平成26年度には、教授1、助教1、兼任助教2の4名により、 1)化学療法を中心とした高度ながん治療の展開を推進させた。 2)化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進させた。 3)化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医の養成を推進させた。</p> <p>三重大学： 【放射線腫瘍学講座】平成24・25・26年度に1名ずつ計3名の医師が入学した。また、講座の設置により放射線医学講座・がんプロ大学院の説明会を各研修先病院にて開催し、研修医への広報活動を活発に行っている。また、初期研修医1名が来年度の放射線腫瘍学養成コースに入学希望あり。ヨーロッパ放射線腫瘍学会と日本放射線腫瘍学会との共同で開催されたEstro school in Japan に大学院生2名が参加。</p> <p>滋賀医科大学： ・平成24年度10月に大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置されており、腫瘍学講義を学部・大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科及び腫瘍センターを運営して、がん診療活動と先進医療開発に従事している。さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。また同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定に取り組んでいる。 ・教授1名、特任講師2名が配置されている。</p>	<p>(資料5) 「講座設置計画・講座設置状況」</p>

教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数、

中間評価(24.4.1～26.10.31)取組み状況

教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等も含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者として、「最新医療技術について」、「最新医療研究データについて」、「がん患者症例と治療法について」などのフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学職員だけでなく、他大学職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「がんチーム医療研修」、「高精度放射線治療研修」、「専門薬剤師研修」を開催している。なお、上記FD開催数に入れていないものの、各コース毎に、週1程度、グループ・合同カンファレンスが行われ、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組んでいる。

取組内容	大学名等	24年度		25年度		26年度	
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数
(2)教員の指導技術向上等のためのファカルティ・ディベロップメントの各年度における開催数・参加人数	京都大学	18	1300	20	1259	7	574
	三重大学	5	362	17	854	14	624
	滋賀医科大学	12	600	11	340	10	620
	大阪医科大学	1	24	1	28	1	21
	京都薬科大学	5	160	5	140	3	192
計		41	2446	54	2621	35	2031

26年度取組み状況

京都大学：
各疾患別の症例カンファレンス、がん薬物療法専門医更新・指導医申請予定者に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。また、Best of ASCOや癌治療学会、がん薬物療法セミナーなどに派遣した。(抗悪性腫瘍薬コース)

各コースでは、
(薬剤師コース)
指導教員は指導能力向上のために講演会などに積極的に参加し、FDに取り組んでいる。また、がんプロ学生に対する指導方法について、がん専門薬剤師と月に1回定期的にディスカッションし、指導内容の改善に努めている。

(リハビリテーションコース)「がんリハビリテーション特別講演会」を開催(平成26年8月22日)

(抗悪性腫瘍薬コース) がん薬物療法専門医更新・指導医申請予定者に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。また、Best of ASCOや癌治療学会、がん薬物療法セミナーなどに派遣した。(抗悪性腫瘍薬コース)

(医学物理コース)
医学物理士更新予定者に、必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。

(放射線治療医コース)
スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。

(婦人科コース)
①毎週の病理カンファレンス(婦人科腫瘍医と病理医、20名参加)、②毎週の画像カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加)、③毎週の放射線治療カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加)を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。

三重大学：
【コース共通】26年度のFD実施回数14件、述べ624人の参加者があった。
【医師養成コース】近畿3拠点合同事業FD講習会に近畿3拠点の事業推進責任者と自治体のがん医療行政担当官が参加し、がんプロ事業を地域連携にどのように生かすかについて討議を行った。
婦人科がん専門医コースではe-learning 研修を開始した。CDIによるe-learning を3枚作製した。

滋賀医科大学：
・病診連携フォーラムや勉強会を開催し、各教員等に知識を身に付けるようにしている。
・新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース：開催数2回/参加人数115名
第16回病診連携フォーラム(6月29日/58名) 第17回病診連携フォーラム(11月16日/57名)

大阪医科大学：
化学療法センターにおいて、三島圏域緩和ケア研修会を6月14・15日の二日間わたって実施した(参加者21名)。

京都薬科大学：
がんプロコース履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義(特別講義終了後に「セミナー」も実施)を実施している。また、大学教員としての指導能力向上を目的とした大学全体としての「FD」については実施しているが、今後は「学部」と「大学院」を区別したFD活動体制について「大学院教育検討委員会(2014..4設置)」を中心に検討し、実施する予定である。
【医薬品評価科学特論】・5/13(火)、「臨床開発における医薬品評価」・5/20(火)、「薬剤師が行う臨床研究」・5/27(火)、「医薬品承認申請と医薬品評価」

6	<p>外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、</p>	<p>中間評価(24.4.1.~26.10.31)取り組み状況</p> <p>24年度評価において、「5大学間の交流や連携を生かさなければならぬ。」との講評結果を受け、翌25年度「5大学事業推進委員会」では、「5大学間の人材交流」、「多職種交流」を推進、重点項目としている「国際的視野をもったがん研究者・がん医療人養成」を推進するため、5大学連携事業として「海外大学との合同教育セミナー」を決議し、「5大学連携ソウル大学合同教育セミナー」を実施。25年度評価では、「この取り組みを高く評価したい。」との講評を得ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: プログラムの発展的な見直しが行えるよう、24年度、25年度に実施した外部評価に引き続き、26年度においても、事業推進委員会において外部評価を実施することが決められ、27年3月10日～3月20日において実施予定</p> <p>三重大学: 5大学 事業推進運営委員会において26年度外部評価を行うことを確認。</p> <p>滋賀医科大学: 滋賀医科大学学外有識者に出席いただき、がんプロ事業も含めた外部評価を行っている。</p> <p>大阪医科大学: 5大学 事業推進運営委員会において、毎年度、外部評価を行うことを確認。</p> <p>京都薬科大学: 京都大学グループとして、毎年度「外部評価」を実施することを確認している。</p>	<p>(資料6) 「26年度 がんプロ事業推進運営委員会議事録」とおり</p>
7	<p>医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数、</p>	<p>中間評価(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>別紙資料「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」とおり</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度、「神経内分泌腫瘍ユニット」が新たに導入され、京都大学におけるがんに関する医療チーム数は、17チームとなった。 (平成24年度は、原発不明/希少癌ユニット、血液腫瘍ユニットを新設、平成25年度は、小児がんユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットを新設。)</p> <p>* ユニットは、癌種ごとに専門診療科(内科、外科、放射線治療科、腫瘍内科、放射線診断科)が、診療科の壁を越えて、カンファレンスはもちろん、同日に外来を行ったり、病棟での診療を行う新しい取組である。</p> <p>三重大学: 平成26年4月、緩和ケアセンターを設置、「緩和ケアチーム」を導入し、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、麻酔科医・鍼灸師も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制を整備した。また三重大学に入院して治療を行うすべてのがん患者に対して歯科医師、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を引き続き確立している。また、婦人科・病理・放射線科合同検討会を月1回、婦人科・放射線科・画像診断検討会を週1回行っている。 緩和ケアチームによる回診、検討会を週2回、月曜日と水曜日に行い、緩和関係者全員が参加する 定例会を毎月1回開催した。</p> <p>滋賀医科大学: 附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチームを設置して運用している。腫瘍センター内に化学療法室に化学療法チームを配置している(医師6名、他看護師・薬剤師)。腫瘍センター内に緩和ケアチームを配置し、医師(専従・専任2名)、看護師(専従1名)、薬剤師(専任1名)、ソーシャルワーカー(専任1名)がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、三島圏域緩和ケア研修会を6月14・15日の二日間わたって実施した。さらには、緩和ケア事例検討会を12月11日に開催した。</p>	<p>(資料7) 「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」とおり</p>

8	<p>多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、新たな導入数、</p>	<p>中間評価(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>(資料8)「カンサーボード一覧」</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>「カンサーボードの実施数」(26年度は、10月31日まで)</p> <table border="1" data-bbox="379 488 1141 674"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">カンサーボードの実施数</td> <td>京都大学</td> <td>488</td> <td>520</td> <td>512</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>130</td> <td>158</td> <td>163</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>651</td> <td>714</td> <td>711</td> <td>765</td> </tr> </tbody> </table>	事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	カンサーボードの実施数	京都大学	488	520	512	602	三重大学	33	34	33	23	滋賀医科大学	0	2	3	3	大阪医科大学	130	158	163	137	計		651	714	711	765	<p>京都大学: (資料8)「カンサーボード一覧」のとおり</p>
事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度																															
カンサーボードの実施数	京都大学	488	520	512	602																															
	三重大学	33	34	33	23																															
	滋賀医科大学	0	2	3	3																															
	大阪医科大学	130	158	163	137																															
計		651	714	711	765																															
9	<p>医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、</p>	<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>別紙資料「新たに導入したがんに関する医療チーム医療チーム、カンサーボードの質の向上、新しい医療に対応できるよう、24年度には、原発不明がん/希少がんユニット、血液腫瘍ユニットの設置、25年度には、小児がんユニットユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットの設置、26年度には、神経内分泌腫瘍ユニットの設置へと繋がり、医療チーム、カンサーボード以外にも、各コースにおいて、多数のがんプロ履修生が参加する「合同カンファレンス・症例検討会・勉強会」が実施され、カンサーボードの質の向上へと繋がられ、順調に事業が進捗している。</p> <p>別紙資料「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」(具体的な活動内容)のとおり</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: (リハビリテーションコース)各履修者の研究分野に応じて「次世代の臨床試験を担う人材育成コース」会議や京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、がん相談支援室「チャイルドピア」)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース)診療科横断的なカンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的なカンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている(具体的には、外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な外来化学療法連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。</p> <p>(放射線治療医コース・医学物理コース)放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)</p> <p>(放射線治療医コース)脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃がん/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膵癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明がん/希少がんユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移カンサーボード等、各ユニットカンファレンス・カンサーボードへの参画</p> <p>具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している</p>	<p>(資料7) 「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」のとおり</p>																																	

9	<p>医療チーム、キャンサーボードへの参加人数、開催数、期間等、</p>	<p>(婦人科コース)医療チーム:毎週1回月曜日午後、医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また適時(2週間に1回程度)、緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。</p> <p>キャンサーボード:毎週2回(月、水の朝)、婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。毎週1回(水曜日の夕方)、婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。毎週1回(木曜日の夕方)、婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。</p> <p>地域連携活動等がん普及啓発活動:当教室では毎年1月末～2月に「産婦人科手術・化学療法研究会」を主催している(平成26年が第14回)。ここでは、地域の婦人科がん治療施設からの一般演題を募集し、さらに特別講演も行って、婦人科がん治療に関するディスカッションを行っている。また、毎年11月に「関西婦人科腫瘍・病理懇話会」を主催しており(平成26年が第6回)、地域の婦人科がん治療施設から婦人科腫瘍で病理診断が困難であったり珍しい症例の病理標本を検討し、ディスカッションを行っている。また、当教室は平成22年度より「近畿産科婦人科学会婦人科腫瘍研究部会」の幹事となっており、毎年近畿の婦人科がん治療施設からの演題を集め、婦人科がんに関するディスカッションを行っている。</p> <p>三重大学: 毎月1回開催される、がんセンターリーダー会議でチューマーボード、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況を報告し、質の向上のための協議を行っている。平成26年度は平成27年2月までの時点で、がんセンターリーダー会議を10回開催した。</p> <p>滋賀医科大学: キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連する科の医師に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。平成26年度:小児科と泌尿器科症例につき腫瘍内科、消化器・血液内科、放射線科、消化器・乳腺一般外科、泌尿器科、小児科等が参加し、3回実施した。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、がんセンターによるキャンサーボードとして講演会を11月28日に開催した。</p>	<p>(資料7) 「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」との おり</p>																																	
10	<p>コース履修者の医療チーム・キャンサーボードへの参加人数、開催数、期間等</p>	<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>「キャンサーボードの実施数」(26年度は、10月31日まで)</p> <table border="1" data-bbox="371 1043 1134 1218"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">キャンサーボードの実施数</td> <td>京都大学</td> <td>488</td> <td>520</td> <td>512</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>130</td> <td>158</td> <td>163</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>651</td> <td>714</td> <td>711</td> <td>765</td> </tr> </tbody> </table> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 各コースにおいては、合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース)骨転移症例カンファレンス(整形外科、放射線治療科、泌尿器科、乳腺外科、腫瘍内科合同)への参加(月1回、コース履修者5名が毎回参加)、乳腺症例カンファレンス(乳腺外科、腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科、遺伝子診療部)への参加(週1回、コース履修者5名が毎回参加)、乳腺病理カンファレンス(乳腺外科、腫瘍内科、放射線診断科、病理診断科合同)への参加(週1回、コース履修者5名が毎回参加)</p> <p>(リハビリテーションコース)各履修者の研究分野に応じて「次世代の臨床試験を担う人材育成コース」会議や京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、がん相談支援室「チャイルドピア」)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) コースがんプロ学生全員:放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)</p> <p>(放射線治療医コース)脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃がん/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膀胱癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明がん/希少がんユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移キャンサーボード等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードに放射線治療科が参画し、直接外來を担っている。</p>	事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	キャンサーボードの実施数	京都大学	488	520	512	602	三重大学	33	34	33	23	滋賀医科大学	0	2	3	3	大阪医科大学	130	158	163	137	計		651	714	711	765	<p>(資料7) 「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」との おり</p> <p>(資料8) 「キャンサーボード一覧」のと おり</p>
事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度																															
キャンサーボードの実施数	京都大学	488	520	512	602																															
	三重大学	33	34	33	23																															
	滋賀医科大学	0	2	3	3																															
	大阪医科大学	130	158	163	137																															
計		651	714	711	765																															

10	<p>コース履修者の医療チーム・カンサーボードの参加人数、開催数、期間等</p>	<p>三重大学: 緩和ケアチームの回診、検討会への参加、チューマーボードへの参加をコース履修者の単位修得の対象として扱っている。 26年10月までの半年に23回実施している。 (チューマーボード、毎月1回開催、毎回約100名参加)</p> <p>滋賀医科大学: ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置している。コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加を許可している。 ・平成26年度:小児科と泌尿器科症例につき腫瘍内科、消化器・血液内科、放射線科、消化器・乳腺一般外科、泌尿器科、小児科等が参加し、3回実施した。</p> <p>大阪医科大学:大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、がんセンターによるカンサーボードとして講演会(大腸がん)を11月28日に開催した。(参加者18名)</p>																																																													
11	<p>院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績、</p>	<p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>「院内がん患者登録数」「地域がん患者登録数」</p> <table border="1" data-bbox="379 616 1145 907"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">院内がん患者登録数</td> <td>京都大学</td> <td>3563</td> <td>3669</td> <td>3516</td> <td>3511</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1530</td> <td>2518</td> <td>2539</td> <td>2822</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>1371</td> <td>1186</td> <td>1506</td> <td>1255</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2203</td> <td>2572</td> <td>2620</td> <td>2435</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>8,667</td> <td>9,945</td> <td>10,181</td> <td>10,023</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">地域がん患者登録数</td> <td>京都大学</td> <td>3563</td> <td>10569</td> <td>4557</td> <td>3719</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1530</td> <td>2518</td> <td>2539</td> <td>2822</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>1371</td> <td>1186</td> <td>1506</td> <td>1255</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2763</td> <td>2847</td> <td>3164</td> <td>2984</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>9,227</td> <td>17,120</td> <td>11,766</td> <td>10,780</td> </tr> </tbody> </table> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学:平成26年度の提出件数(10月31日) 【院内がん登録】国立がん研究センターへ 3,511件 【地域がん登録】京都府医師会へ 3,719件</p> <p>三重大学: 三重大学のがんセンターで地域がん登録を行っているので、三重大学の院内がん登録はすべて地域がん登録と連携しており、平成26年の院内がん登録件数は2,822件で、すべてのデータが地域がん登録と連携して活用されている。</p> <p>滋賀医科大学: 附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 平成26年の院内がん登録件数 1,255件 地域がん登録件数 1,255件</p> <p>大阪医科大学: 院内がん登録件数: 2,435件。地域がん登録件数 2,984件</p>	事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	院内がん患者登録数	京都大学	3563	3669	3516	3511	三重大学	1530	2518	2539	2822	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255	大阪医科大学	2203	2572	2620	2435	計		8,667	9,945	10,181	10,023	地域がん患者登録数	京都大学	3563	10569	4557	3719	三重大学	1530	2518	2539	2822	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255	大阪医科大学	2763	2847	3164	2984	計		9,227	17,120	11,766	10,780	
事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度																																																										
院内がん患者登録数	京都大学	3563	3669	3516	3511																																																										
	三重大学	1530	2518	2539	2822																																																										
	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255																																																										
	大阪医科大学	2203	2572	2620	2435																																																										
計		8,667	9,945	10,181	10,023																																																										
地域がん患者登録数	京都大学	3563	10569	4557	3719																																																										
	三重大学	1530	2518	2539	2822																																																										
	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255																																																										
	大阪医科大学	2763	2847	3164	2984																																																										
計		9,227	17,120	11,766	10,780																																																										
12	<p>地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数、</p>	<p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>資料「各種団体(地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体)との連携事業」のとおり</p> <table border="1" data-bbox="379 1563 1145 1765"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコースを設置(外来がん化学療法チーム養成コース、高度放射線治療を担う人材養成コース、地域がん医療を担う薬剤師養成コース、次世代の臨床試験を担う人材養成コース)、地域医療機関等と連携した取組みを行っている。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	三重大学	16	593	17	573	13	438	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	<p>京都大学: (資料9) 「インテンシブコース実施事業・その他開催事業」のとおり</p>		
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																								
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																								
各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278																																																								
	三重大学	16	593	17	573	13	438																																																								
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620																																																								
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248																																																								
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																								
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584																																																								

<p>12</p>	<p>(薬剤師養成コース) H24年度、H25年度に京都府薬剤師会と共催で「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を開催した。京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に開催しており、大学内外から専門家を招聘して行っている。今年度も平成27年2月21日に開催予定である(H24年度実績:参加者144名、H25年度実績:120名)。</p> <p>(外来がん化学療法チーム養成) がん治療に係わる基幹病院の医師・看護師・薬剤師を対象に、最新かつ高度な専門的知識・技術の普及、およびチーム医療のがん専門医療職養成するために、「京大病院がんチーム医療研修」を定期的に開催している。 平成24年:1/24-25, 2/21-22, 3/10, 10/16-17, 11/6-7, 11/27-28, 12/18-19 24施設 72名参加 平成25年:1/22-23, 2/19-20, 3/16, 10/29-30, 11/12-13, 11/26-27, 12/10-11 20施設 60名参加 平成26年:1/21-22, 2/4-5, 3/15, 10/28-29 12施設 36名参加 約2年半で全国より計56施設168名の医療者の参加があり、がん薬物療法を中心に基本的スキルの修得だけではなく、京大病院の最新システムの研修を行った。さらに、各施設の現状・問題点・解決法について意見交換を行い、その後の問題点解決に向けた取り組みをフィードバックした。</p> <p>(次世代の臨床試験を担う人材育成コース) 医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、CRC、作業療法士などが集う多職種チーム会議を月1回開催し、特にコメディカルが主体となって行う臨床試験の計画・遂行を支援してきた。結果解析中の試験が1つ(責任者:作業療法士)、進行中の試験が3つ(責任者:腫瘍内科医、作業療法士、CRC)、計画中の試験が3つ(責任者:看護師、腫瘍内科医、乳腺外科医)である。</p> <p>(高度放射線治療を担う人材養成コース) 2005年に第1回の高精度放射線治療ワークショップを開始し、全国の放射線治療施設の高精度放射線治療技術導入を推進してきた。毎年、2~3回の開催を行い、2014年11月まで25回を迎えた。 平成24年度:開催回数3回(第21,22,23回)、がんプロ枠:大阪医科大学(第22回)、三重大学(第23回) 平成25年度:開催回数2回(第24,25回)、がんプロ枠:大阪医科大学(第24回)、三重大学(第25回) 平成26年度:10月11日 京都放射線腫瘍研究会プログラム・116名参加を実施、 (医学物理コース) 医学物理教員1名が2012年度東北がんプロ養成推進プランや2013年度放射線治療品質管理講習会、JASTRO教育委員会主催放射線治療・物理学セミナーの講師を担当した(参加者はいずれも100名超)</p> <p>(放射線治療医コース) 放射線治療科医師教員3名が、放射線治療認定看護師講習会の授業を行った(参加者約20名)。</p> <p>(リハビリテーションコース) コース履修生1名が京自助具館自助具専門相談員として活動、また京都滋賀摂食嚥下を考える会福祉食器開発プロジェクトに参画。またコース修了生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当。</p> <p>(婦人科コース) 京都産婦人科医会および日本産科婦人科学会との連携したがん関係の研究会・学術集会の開催。①6月13日、生殖医学研究会、参加者約70名。②6月27日-28日、日本フィリピン生涯研修プログラム、参加者約120名。③8月3日、産婦人科サマーセミナー、参加者約100名。④10月13日、京都少子化問題研究会、参加者約100名。⑤10月3日-4日、日本胎盤学会、参加者約600名。(婦人科コース)</p> <p>三重大学: 【コース共通】三重大学が主催し、地域がん登録全国協議会の学術集会を開催した(平成26年6月12,13日)。三重県医師会、津地区医師会、日本膵臓学会と連携し、パープルリボンin津(平成26年9月13日)を開催した。三重県内のすべてのがん診療連携拠点病院と地域の医療機関、三重県医師会、三重県病院薬剤師会、三重県看護協会と連携したがんチーム医療研究会を年2回開催し、がん医療に関するセミナー、情報交換を行っている。 【看護師養成コース】三重県看護協会と連携した三重がん看護フォーラム、日本緩和医療学会と連携した三重大ELNEC-J、三重がん看護専門看護師会との連携による共同勉強会、三重県がんにおける質の高い看護師育成研修を開催した。</p> <p>【コース共通】第17回がんチーム医療研究会(平成26年9月12日、98名参加)、第18回は平成27年3月13日予定。 【看護師養成コース】三重がん看護フォーラム(平成26年5月17日、約110名参加)、三重大ELNEC-J(平成26年10月18・19日42名参加)、CNS勉強会(年9回、147名参加)、三重県がんにおける質の高い看護師育成研修(40日間、9月8日~11月21日、8名参加)</p>	<p>京都大学: (資料9) 「インテンシブコース実施事業・その他開催事業」とおり</p>
-----------	--	---

12		<p>滋賀医科大学 ・インテンシブコースを積極的に行っており、薬剤師会等と連携して定期的にセミナーやconference等を行っている。 地域医師会及び医療機関向けのがんの診断、化学療法、放射線療法、緩和ケア、がん診療連携クリニカルパスに関わる研修会を複数開催している。</p> <p>・平成26年度セミナー等開催数18回(開催予定4回含む) 合計参加者数1198名 ・地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース:開催数7回/合計参加者数444名 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:3回、334名参加(4月19日/150名、10月5日/184名、平成27年1月31日予定) 滋賀県がん薬物療法conference:4回、110名参加(7月2日/38名、9月3日/39名、11月9日/33名、平成27年3月4日予定)</p> <p>新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース開催数8回/合計参加者数639名 滋賀CINV講演会(5月10日/36名)滋賀緩和医療講演会(7月3日/62名)Meet the Expert(10月9日/33名)平成26年度第1回緩和ケア講演会(10月23日/84名)Chugai Ovarian Cancer Symposium in Shiga(10月24日/28名)第12回滋賀県がん地域連携バス研修会(11月24日/202名)第1回東近江医療圏がん診療市民公開講座(11月24日/202名)第2回は平成27年3月22日に開催予定。平成26年度滋賀県がん向き合う週間企画「がん治療と生殖医療」を平成27年2月11日に開催予定。 ・新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース:開催数2回/参加人数115名 第16回病診連携フォーラム(6月29日/58名)第17回病診連携フォーラム(11月16日/57名)</p> <p>大阪医科大学: 三島圏域がん研究会(5/22・9/11)、三島圏域緩和ケア研修会(6月14・15日実施)、がんセンター講演会(研修会)(6/19・9/30・10/9・11/28・2/3・3/10)を実施。(計6回・参加者248名)</p> <p>京都薬科大学: 学内で「臨床薬剤業務セミナー」を定期的に開催している。セミナーでは、地域の現役病院・薬局薬剤師を講師として招き、多様な症例について討議を行っている。</p> <p>・4/18(金)災害を経験して、今後の薬剤師の在り方を考える(大阪府薬剤師会・宮城県薬剤師会) 6/20(金)病棟薬剤師として臨床の場で経験したこと～緩和医療を通じて/短腸症候群症例を通じて(京都第一赤十字病院薬剤部) ・7/11(金)10年間糖尿病治療に携わった経験から(大津市民病院) ・9/19(金)在宅医療における薬局薬剤師の栄養管理について～小児短腸症患者とのあゆみ～(ファルコファーマシース) ・10/24(金)高槻赤十字病院における抗がん剤レジメンの運用(高槻赤十字病院薬剤部)</p>																																																											
13	<p>社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)</p>	<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>「各年度における市民向けの公開講座・セミナー等一覧表」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等</td> <td>京都大学</td> <td>5</td> <td>739</td> <td>5</td> <td>714</td> <td>2</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2</td> <td>585</td> <td>3</td> <td>989</td> <td>2</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>6</td> <td>373</td> <td>14</td> <td>936</td> <td>5</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2</td> <td>320</td> <td>3</td> <td>430</td> <td>1</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>15</td> <td>2,017</td> <td>25</td> <td>3,069</td> <td>10</td> <td>795</td> </tr> </tbody> </table> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学においては、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、毎年度、他拠点大学(京都府立医科大学)との連携で、府民公開講座を実施(26年度は、27年2月22日に実施) また、各コースにおいて、</p> <p>(手術療法・機器開発コース) 10月26日 第10回京都乳がん市民公開講座 100名参加を実施</p> <p>(リハビリコース) 8月22日 がんリハビリテーション特別講演会 22名参加を実施</p> <p>三重大学: がんセンターが主催し、年2回市民公開講座を開催している。日本口腔外科学会中部地方会が三重大学主催で開催され、医科歯科連携の講演を行う。三重県歯科医師会が開催する三重県歯科保健大会で、がん治療を支える歯科医療のシンポジウムを行なう。生命の駅伝ジョイント市民公開講座(平成26年5月25日、200名参加)、第8回市民公開講座(緩和ケアと小児がん、平成27年3月1日開催予定)。日本口腔外科学会中部地方会で医科歯科連携について講演(平成26年10月11日開催)。三重県歯科保健大会でがん治療を支える歯科医療のシンポジウムに参加(平成26年11月3日開催)。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	三重大学	2	585	3	989	2	380	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		15	2,017	25	3,069	10	795	
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122																																																						
	三重大学	2	585	3	989	2	380																																																						
	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213																																																						
	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		15	2,017	25	3,069	10	795																																																						

13		<p>滋賀医科大学: ・がんに関連した市民講座を開催することで情報発信をしている。 ・平成26年度 7回 合計参加者数499名 ・新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース:滋賀CINV講演会(5月10日/36名)滋賀緩和医療講演会(7月3日/62名)、平成26年度第1回緩和ケア講演会(10月23日/84名) ・新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース:第16回病診連携フォーラム(6月29日/58名)第17回病診連携フォーラム(11月16日/57名)、第1回東近江医療圏がん診療市民公開講座(11月24日/202名) 第2回は平成27年3月22日の予定</p> <p>大阪医科大学: がんセンター市民公開セミナー「みんなで学ぼう。がん医療」を平成27年2月21日に実施予定。(参加予定人数250名)</p>																																
14	<p>本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、</p>	<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>「ホームページの更新回数」</p> <table border="1" data-bbox="379 645 1145 875"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数</td> <td>事業全体(京都大学)</td> <td>84</td> <td>93</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>14</td> <td>19</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>113</td> <td>128</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」ホームページを開設し、連携する5大学(京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学)の市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、地域医療機関への研修案内等、社会へ向けた積極的な情報発信を行っている。 また、毎年度実施する「外部評価」を、HPにおいて公開している。</p> <p>三重大学: 三重大学の大学院のホームページ、三重大学医学部附属病院がんセンターのホームページでそれぞれ本事業の情報公開を行っている。平成26年度は平成27年2月までの時点で、三重大学医学部附属病院のがんセンターのホームページでがんプロ推奨セミナーの案内を20回行った。</p> <p>滋賀医科大学: 本学のホームページにがんプロのホームページにリンクさせており、文部科学省や京都大学のがんプロのページに飛ぶことが可能となっている。また、本学のホームページにおいて、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載している。</p> <p>大阪医科大学: 本学のホームページから本事業ホームページへとリンクさせており、積極的に情報公開を行っている。</p> <p>京都薬科大学: 京都大学で開設されているがんプロホームページを本学ホームページにリンクさせている。本学でがんプロ関連の取り組みを行った場合は、京都大学に情報を提供し、ホームページでの公開を行っている。 本学リンクページ: http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/graduate/</p>	事項	大学名	24年度	25年度	26年度	がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数	事業全体(京都大学)	84	93	51	三重大学	14	19	13	滋賀医科大学	14	16	15	大阪医科大学	0	0	0	京都薬科大学	1	0	0	計		113	128	79	<p>京都大学: HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/</p>
事項	大学名	24年度	25年度	26年度																														
がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数	事業全体(京都大学)	84	93	51																														
	三重大学	14	19	13																														
	滋賀医科大学	14	16	15																														
	大阪医科大学	0	0	0																														
	京都薬科大学	1	0	0																														
計		113	128	79																														
15	<p>コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表 100件を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を目指し、教育研究成果の発表を重点目標として、英文による教育研究発表を推進しており、24年度における国際学会・英文誌等への発表数23件、25年度78件、26年度(10月31日まで)50件を達成し、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p>	<p>(資料10) 「国際学会、英文誌発表」とおり</p>																															

15	<p>コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数</p>	<p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度の英文研究論文発表件数は、46件（資料10 国際学会、英文誌発表）のとおり なお、24年度は、23件、25年度78件を達成しており、京都大学のみで、5大学において5年間の達成目標とする100件を超える英文による発表を行なっている。</p> <p>三重大学: コース履修者の研修派遣、国際学会への参加に対しては、旅費等の経済的な支援を行っている。また、指導教員による国際学会、英文誌への発表に対する教育・指導が行われている。</p> <p>滋賀医科大学: ・平成26年度 英文研究論文発表件数 5件</p> <p>大阪医科大学: 14th World Congress of the ISDEにおいて大学院生1名が発表した。 The Efficacy and Safety of Nedalatin and 5FU Combination Chemotherapy in Patients with Metastatic and Rcurrent Esophageal Carcinoma</p> <p>京都薬科大学: 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。各コース履修者の取組状況は別紙のとおり。</p>	<p>(資料10) 「国際学会、英文誌発表」とおり</p>
16	<p>コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成のため、国際学会・シンポジウム等への研究発表参加を推進しており、24年度における海外派遣26件、25年度海外派遣43件、26年度(10月31日まで)海外派遣23件を達成した。 25年度には、連携大学との人材交流、多職種交流の強化、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させるため、「5大学連携 ソウル大学合同教育セミナー」を実施し、26年度には、27年1月9日より、国立台湾大学と「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」を実施し、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: がんプロ学生の海外派遣 23件 (資料10)「海外派遣一覧」のとおり</p> <p>また、26年度は、23件以外に、5大学連携事業で、「国立台湾大学合同教育セミナー」(27.1.9～1.11)(教職員等5名、履修生9名参加)を実施</p> <p>三重大学: コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。 なお、台湾大学合同教育セミナーに、放射線腫瘍医養成コース履修生1名が参加</p> <p>滋賀医科大学: ・コース履修者に対しては、海外研修、国際学会への参加を積極的にサポートしている。 ・平成26年度 1名/1回 ・平成26年度:5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」に1名参加した。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学:5大学海外合同セミナーへ3名派遣(大学院生2名・医師1名)</p> <p>京都薬科大学: 2015年1月9日(金)～1月11日(日)(3日間)の期間、がんプロ5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」に1名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣した。</p>	<p>京都大学: (資料11)「海外学会・シンポジウム参加一覧」のとおり</p>
17	<p>国際交流プログラムの実施数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での国際交流プログラムの実施 5件を目標</p>	

17	<p>国際交流プログラムの実施数、</p>	<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>1) MDアンダーソンとの交流プログラムにより、「GAP conference MDACC—Kyoto University Symposium」を実施、2) 韓国ソウル大学との交流プログラムにより、「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」、「5大学連携ソウル大合同教育セミナー」を実施、3) インド Christian medical collageとの交流プログラムにより、特別講演を実施、がんプロ履修生の派遣。4) ベルギー自由大学との交流プログラムにより、がんプロ履修生を派遣、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度においては 1) MDアンダーソンとの交流プログラムにより、2014年4月17日(木)がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催のシンポジウム「iPS and Stem Cells in Cancer Research」を開催。 MDアンダーソンがんセンターより、Dr. Sadhan、Dr. Jian、Dr. Dean、慶応大学より、佐谷先生、岡田先生、京都大学より、山田先生、金子先生、妹尾先生が講演。</p> <p>2) MDアンダーソンとの交流プログラムにより、27年2月25日より看護師2名を、がん看護研修受講のため米国へ派遣。</p> <p>3) 韓国ソウル大学との交流プログラムにより、京大・ソウル大合同教育セミナー「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」(2014/11/16) を京都大学で開催、</p> <p>4) 国立台湾大学との交流プログラムにより、連携する5大学との「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」を実施(27.1.9-1.11)京都大学より、8名の教員・がんプロ履修生を国際的がん研究者・医療人養成のため派遣</p> <p>5) インド Christian medical collage(CMC)との交流プログラムにより、「Medical Physics Research and Education at CMC Vellore」特別講演(10/22)を京都大学で開催、また、2014年2月から2か月間、CMCから医学物理士を受け入れた。(医学物理コース)</p> <p>6) ベルギー自由大学との交流プログラムにより、がんプロ履修生をインターシップ派遣を行い、先端物理研究者養成のための放射線治療機器技術開発連携等の国際交流プログラムが実施された。(医学物理コース)</p> <p>7) 中国からの留学生を対象に放射線腫瘍学・医学物理教育を行っている。(放射線治療医・医学物理コース)</p> <p>三重大学: 国立台湾大学合同シンポジウム27年1月9—11日(医師1名参加)</p> <p>滋賀医科大学: ・SUMSプロジェクトとしてアジアの提携大学から継続的に大学院生1名を継続的に受け入れて入る。(平成26年度 1名/1回) ・平成26年度・5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」に1名参加した。</p> <p>大阪医科大学: 5大学海外合同セミナーへ3名派遣(大学院生2名・医師1名)</p> <p>京都薬科大学: がんプロ5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」に1名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣した。</p>	
18	<p>海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催 10件を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>1) 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催では、25年度および26年度に、「GAP conference MDACC—Kyoto University Symposium」を実施、2) 25年度および26年度に、「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」を開催、3) Christian medical collageとの交流プログラムによる特別講演、4) 三重大学においても、米国インディアナ大学より骨転移の専門家を招いての特別講演が行われるなど、当初目標を大きく上回る効果・成果が出ている。</p>	

18	<p>海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、</p>	<p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度においては 1)MDアンダーソンとの交流プログラムにより、2014年4月17日(木)がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催のシンポジウム「iPS and Stem Cells in Cancer Research」を開催。 MDアンダーソンがんセンターより、Dr. Sadhan, Dr. Jian, Dr. Deanの3名による講演がおこなわれた。</p> <p>2)11月16日 京大・ソウル大合同教育セミナーにおいて、ソウル大学 Min Kyoon Kim助教、Eum Shin Lee医員の2名による講演がおこなわれた。</p> <p>3)4月8日(火)、①Professor Göran Lingman(Dept Obstetrics & Gynecology, Medical Faculty,Lund University, Sweden)による『Fetal life, effect on adult health』の講演を開催、参加者約50名。(婦人科コース)</p> <p>4)Yirgu Gebrehiwot Frede(President of African Federation of Obstetrics and Gynecology, President of Ethiopian Society of Obstetrician and Gynecologists)による『Part what my country is and Part about cervical cancer in out context』の講演を開催、参加者約50名。(婦人科コース)</p> <p>滋賀医科大学: ・平成26年度:新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース:埼玉医科大学国際医療センター副院長を招き、最新のがん支持療法の講演会を行った(平成26年5月10日、佐伯俊昭、滋賀 CINV 講演会)。 ・新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース:淀川キリスト教病院副院長を招き、最新のがん緩和ケアの講演会を行った(平成26年7月3日、池永昌之、滋賀緩和医療講演会)。</p> <p>大阪医科大学: がんセンターにおいて、11月28日に講演会を実施。 『最新の大腸がん外科治療～フランスIRCADとのコラボレーション～』 演者:Prof.Joel Leroy (IRCAD/EITS France)</p>	
19	<p>コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ がんプロ大学院生が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制を整備することを目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものと考えられ、国内外の学会・シンポジウムでの履修生による研究発表を推進させるため、指導教員の推薦のもと、発表論文名、参加学会名、得られる成果等を記載させ、がんプロ養成委員会において審査のうえ、学会等への発表参加推進のため旅費支援を実施、これにより、履修生による教育研究意欲が大きく向上し、発表論文数の増加に繋がることとなり、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 25年度に引き続き26年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、国際的視野を有した研究者への養成のため、国際学会での発表、がん研究施設への研修に積極的に参加させることが確認され、5月・9月・12月に、がんプロ履修生に海外・国内派遣等の募集を行い、このサポート体制により、海外派遣 19件、国内派遣 28件を「がんプロ・研修旅費等助成申請」で実施。</p> <p>また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、世界でも有数のがん最先端施設である「国立台湾大学」の診療現場を視察し、合同ディスカッション・セミナーを行うことにより国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」を実施、(京都大学8名、三重大学1名、滋賀医科大学1名、大阪医科大学3名、京都薬科大学1名の14名が参加)</p> <p>三重大学: コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学: がんプロコースに在籍する大学院生が、養成のため教育研究上必要と認められ学会等に参加する場合、旅費等の必要経費はがんプロの経費から支払い、負担がかからないようにしている。</p> <p>大阪医科大学: コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修を希望し、教育研究上必要と認められた場合、旅費等の一部支給等の助成を行うことができることとしている。</p>	

19	<p>コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、</p>	<p>京都薬科大学： サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば学内規程（科学振興基金規程）により、留学に必要な資金に充当できる助成金を支給する。 2015年1月9日（金）～1月11日（日）（3日間）の期間、がんプロ5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」に1名の大学院生（がんプロコース履修者）を派遣した。</p>	
20	<p>連携5大学による「合同フォーラム」の開催、取組み参加状況、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 年1回 連携5大学による「合同フォーラム」の開催を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>毎年度「5大学連携・医療フォーラム」を実施、24年度は、北海道大学 白土先生、国立がん研究センター 大津先生、聖隷三方原病院 森田先生による特別講演および文部科学省 渡辺企画官による講演、および、連携する5大学における重点区分と特色を紹介。25年度は、三重大学が当番校として三重県津市において開催され、特別講演のほか履修生による研究発表や各大学の重点区分、履修生による成果発表を紹介。（26年度も予定どおり実施）順調に事業は進捗しており、当初目標どおり効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 26年度は、12月15日 京都大学・芝蘭会館において、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、京都大学 婦人科学産科学 小西郁生教授による特別講演「卵巣がん治療のゲノム個別化を展望する」、および、京都大学 恒藤特定教授により、京都大学における緩和医療についての取り組みが発表された。</p> <p>また、同日開催で、「近畿地区3拠点合同フォーラム」（京大拠点5大学・大阪大学拠点7大学・近畿大学拠点7大学）を実施し、各拠点の履修生9名による教育研究成果の発表が行われた。</p> <p>三重大学： 【コース共通】平成26年度5大学連携医療フォーラム（平成26年12月15日開催、三重大学から6名参加）</p> <p>滋賀医科大学： 平成26年度 12月15日に京都大学において開催された5大学連携医療フォーラムに参加し、滋賀医科大学の取組みについて発表した。</p> <p>大阪医科大学： 平成26年12月15日に連携5大学による「医療フォーラム」において、大阪医科大学における重点区分と特色を発表した。</p> <p>京都薬科大学： ・2014年12月15日（月）平成26年度「5大学連携 医療フォーラム」に参加 ・2014年12月15日（月）平成26年度「近畿地区3拠点合同フォーラム」に参加</p>	
21	<p>連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数 30件を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>「5大学事業推進運営委員会」（年2回）を、26年10月までに5回開催、「5大学連携医療フォーラム」（年1回）を2回開催、また、25年度より、5大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学連携 ソウル大学合同教育セミナー」を実施、さらに、インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議（年1回）、チーム医療研修（年6回）を開催、さらに、各コースにおいても拠点内大学の教員を講師とした特別講演を実施し、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p>	

21	<p>連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、</p>	<p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 26年度においては、5大学連携による「5大学事業推進委員会」を2回開催、また、12月15日 京都大学・芝蘭会館において、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、および、「近畿地区3拠点合同フォーラム」(京大拠点5大学・大阪大学拠点7大学・近畿大学拠点7大学)を実施し、各拠点の履修生9名による研究発表が行なわれた。 さらに、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、世界でも有数のがん最先端施設である「国立台湾大学」において、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」を実施（25年度は、「ソウル大学病院」、「サムソンメディカルセンター」との合同教育セミナーを実施）</p> <p>各コースにおいては、 連携大学間での情報共有を目的に、第3回がん専門薬学研究者・がん専門薬剤師養成4大学連携合同コース会議を開催（平成27年2月21日）(薬剤師コース)</p> <p>大阪医科大学のがんリハビリテーションを専門とする医師を、修士課程講義非常勤講師として招請（2014年5月）、「第11回関西がんのリハビリテーション研究会」を神戸大学と共催（平成26年9月13日）(リハビリテーションコース)</p> <p>三重大学： 平成26年度5大学連携医療フォーラム（平成26年12月15日開催、6名参加）、近畿地区3拠点合同フォーラム（平成26年12月15日開催、7名参加）、西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム（平成26年10月18日開催、1名参加）、第3回がんプロ国際シンポジウム（平成27年2月7・8日、4名参加）</p> <p>滋賀医科大学： ・京都大学に特別研究学生としてがんプロコース在籍者を派遣しており、また京都薬科大学から特別研究学生を受け入れて、がんプロのセミナー等に積極的に参加している。附属病院腫瘍センター化学療法室および緩和ケアチームにおいて、近畿地域の病院および医療大学から研修生を受け入れている。 ・平成26年度化学療法室にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。合計指導時間 420時間。また地域医療機関の医師2名が研修。合計指導時間 106日間。 ・緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。合計指導時間 33時間。また、附属病院腫瘍センターにおいて、保険調剤薬局薬剤師の緩和ケア研修の指導を行った。 ・腫瘍内科医師ががん薬物療法認定薬剤師研修での講義を行った（2回）</p> <p>大阪医科大学： 平成26年12月15日に開催されたがんプロ近畿3拠点合同フォーラムへ参加。</p> <p>京都薬科大学： ・4/9(水) 第1回若手研究者セミナー 演者1: 京都大学医学研究科分子腫瘍学教室特定助教 三木貴雄、演題1: がん抑制遺伝子による既日リズムの制御、演者2: 京都薬科大学臨床薬学教育研究センター 講師 中村暢彦、演題2: 臨床系教員による癌治療現場からの意見 ・10/18(土) 西日本がんプロ市民合同公開シンポジウム 本学吉貴がんプロコーディネーターが分科会「前立腺がん」において司会者として参加 ・12/15(月) 平成26年度近畿地区3拠点合同フォーラム(京都大学)に参加</p>
22	<p>連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 連携5大学がんプロ大学院生の e-learning 受講登録100%を目標</p> <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>25年度より、従来の京都大学版 e-learning に加え、全国版(筑波大学版) e-learning に参加、京都大学版 e-learning については、ホームページにおいて受講者募集案内を行っており、各大学の受講登録率は90%を超えるものであるが、全国版 e-learning の受講登録については、各大学ともに参加後まもないこともあって受講登録率は40%となっており、今後、目標に向けて、さらに受講率アップへ向けた取り組みを強化したい。</p>

22	<p>連携5大学 コース履修者のe-learning受講登録率、</p>	<p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 25年度より、従来の京都大学版e-learningに加え、全国版（筑波大学版）e-learning 講義の受講を可能とするため連携校5大学が参加した。 なお、京都大学版 e-learning については、京都大学がんプロホームページにおいて受講募集案内を行っており、京都大学履修生のうち 91%が受講登録を行っている。 他大学における京都大学版 e-learning 受講登録は、滋賀医科大学 100%、三重大学 72%、大阪医科大学100%、京都薬科大学 100% 全国版 e-learningの受講登録は、各大学ともに参加後まもないため低いところであるが、大阪医科大学、京都薬科大学 の受講登録率は、100%となっている。 各大学の受講登録率は、京都大学 40%、滋賀医科大学 38%、三重大学 20%、大阪医科大学 100%、京都薬科大学 100%、</p> <p>三重大学： コース履修者のe-learningの講義受講を単位修得の対象科目として認定している。</p> <p>滋賀医科大学： 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningに受講登録させ、受講を積極的に勧めている。</p> <p>大阪医科大学： 連携5大学のe-learningに登録させ、受講を積極的に勧めている（学生登録率100%）。 全国版 e-learning講義については26名が登録している。（学生登録率100%）</p> <p>京都薬科大学： 京都大学版 e-learning講義学生受講登録率 100% 全国版e-learning講義学生受講登録率 100%</p>	
23	<p>新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 新たな e-learning 講義科目の提供を推進させることを目標</p> <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>19年度から現在も継続して提供されている京都大学版 e-learning に加えて、25年度から全国 e-learning への講義提供を行う。25年度には、5大学より11本の講義を、26年度は10月31日現在までに4本の講義を収録することが出来、全国のEラーニング授業の受講により、当初目標どおり、分野横断的、先進的教育が推進されるものと期待されているところであり、順調に事業が進捗している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 19年度から提供されている京都大学版 e-learning については、24年度からの新規がんプロにおいても提供を続けている。 さらに、25年度より全国 e-learning への授業提供を加えるため、新規授業の撮影を行うもので、京都大学では、25年度に新規7本の講義を撮影・収録した。（5大学合計撮影・収録 11本）</p> <p>26年度においては、10月末までに4本、それ以降3本の合計7本の新たな e-learning 講義科目の提供をおこなった。（5大学合計撮影・収録 8本）（25年度・26年度合計19本）これにより、履修生には全国のEラーニング授業の受講も可能となり、より分野横断的、先進的教育が推進されると期待される。</p> <p>三重大学： 来年度登録に向けて準備中である。</p> <p>滋賀医科大学： e-learningにおいては、今年度1科目を撮影し、提供している。</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学として、がん薬物療法に係る授業科目を行うべく準備を進めている</p> <p>京都薬科大学： 平成25年度中に「1講義」の提供を行ったが、平成26年度は来年度登録に向けて準備中である。</p>	
24 (9)	<p>医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組推進を目標</p>	

24 (9)	<p>医療チーム、がんセンターボードの質の向上のための取組実績、</p>	<p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>医療チーム、がんセンターボードの質の向上、新しい医療に対応できるよう、24年度には、原発不明がん/希少がんユニット、血液腫瘍ユニットの設置、25年度には、小児がんユニットユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットの設置、26年度には、神経内分泌腫瘍ユニットの設置へと繋がり、医療チーム、がんセンターボード以外にも、各コースにおいて、多数のがんプロ履修生が参加する「合同カンファレンス・症例検討会・勉強会」が実施され、がんセンターボードの質の向上へと繋げられ、順調に事業が進捗している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>医療チーム、がんセンターボードの質の向上のための取組として、診療科横断的ながんセンターボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース)外来化学療法に関する症例検討会を週1回、診療科横断的な外来化学療法連絡会を月1回、京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。</p> <p>(リハビリコース)各履修者の研究分野に応じて「次世代の臨床試験を担う人材育成コース」会議や京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、がん相談支援室「チャイルドピア」)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)またがん相談支援室「チャイルドピア」では履修生がレクチャーを行った。</p> <p>(婦人科コース)医療チーム:毎週1回月曜日午後、医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また適時(2週間に1回程度)、緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。</p> <p>がんセンターボード:毎週2回(月、水の朝)、婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。毎週1回(水曜日の夕方)、婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。毎週1回(木曜日の夕方)、婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。</p> <p>地域連携活動等がん普及啓発活動:当教室では毎年1月末~2月に「産婦人科手術・化学療法研究会」を主催している(平成26年第14回)。そこでは、地域の婦人科がん治療施設からの一般演題を募集し、さらに特別講演も行って、婦人科がん治療に関するディスカッションを行っている。また、毎年11月に「関西婦人科腫瘍・病理懇話会」を主催しており(平成26年第6回)、地域の婦人科がん治療施設から婦人科腫瘍で病理診断が困難であったり珍しかった症例の病理標本を検討し、ディスカッションを行っている。また、当教室は平成22年度より「近畿産科婦人科学会婦人科腫瘍研究部会」の幹事となっており、毎年近畿の婦人科がん治療施設からの演題を集め、婦人科がんに関するディスカッションを行っている。</p> <p>(手術療法コース)専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のがんセンターボードへの参加を推進している。</p> <p>(放射線治療医コース・医学物理コース)医療チーム:放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師定期的に会議を開き、診療の問題点、安全が確保されているか、などを議論する会議を設けている。病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており、医学物理士が副議長を務めている。</p> <p>(放射線治療医コース・医学物理コース)がんセンターボード:放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)</p> <p>(放射線治療医コース)がんセンターボード:脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃がん/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膀胱癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明がん/希少がんユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移がんセンターボード等、各ユニットカンファレンス・がんセンターボードへの参画</p> <p>具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している</p> <p>三重大学: 【薬剤師・看護師養成コース】三重県がんにおける質の高い看護師育成研修に講師として、医師をはじめ薬剤師2名、看護師8名が参加した。 平成26年度は平成27年2月までの時点で、がんセンターリーダー会議を10回開催し、質の向上について、協議することにより、チューマーボードは毎回約100名の参加者が確保できるようになり、緩和ケアチーム、口腔ケアチームも相談件数が徐々に増加している。</p> <p>滋賀医科大学: ・全科がんセンターボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多面から質の高い検討ができるように心がけている。 ・平成26年度は小児科と泌尿器科症例につき腫瘍内科、消化器・血液内科、放射線科、消化器・乳腺一般外科、泌尿器科、小児科等が参加し、3回実施した。</p>
-----------	---	--

24 (9)	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績、	大阪医科大学： 緩和ケア委員会、緩和ケア研修会、化学療法センター症例検討会等々の多職種での取組を行っている。																																																											
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間でのがん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績 150件を目標</p> <table border="1" data-bbox="373 412 1145 591"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>24年度より、三重大学においては、がんチーム医療研究会(年2回)、滋賀医科大学では、地域医療バス研修会、地域医療機関との合同カンファレンス、地域医師への緩和ケア研修会、がん早期診断研修、薬物療法研修、京都大学においても、高精度放射線ワークショップ(年3回)、チーム医療研修会(年6回)、大阪医科大学では、三島圏域がん研究会(年2回)が毎年度継続的に開催され、地域医療機関と連携した教育が30件以上開催され、順調に事業が進捗している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 第38回京都放射線腫瘍研究会プログラム(1回)、高精度放射線治療ワークショップ(第26回 2014.11.8-9)、がんチーム医療研修(5回)、第3回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(1回)を実施した。 また、各コースにおいて、 (抗悪性腫瘍コース)兵庫県がん診療連携協議会・研修教育部会主催「乳がんセミナー」(平26/11/29開催)において、がんプロ関連教員が講師を勤めた。 (婦人科コース)研修医・修練医のため産婦人科サマーセミナー(8月4日)、 温知会サマークリニカルフォーラム(7月21日)京都少子化問題研究会(10月13日)を実施</p> <p>三重大学： 三重県内のすべてのがん診療連携拠点病院と地域の医療機関、三重県医師会、三重県病院薬剤師会、三重県看護協会と連携したがんチーム医療研究会を年2回開催し、がん医療に関するセミナー、情報交換を行っている。 第15回がんチーム医療研究会(25年9月10日、90名参加)、第16回は26年3月14日予定)。</p> <p>滋賀医科大学： 25年8月10日、「滋賀がん専門医療人育成講演2013」および「滋賀制吐療法フォーラム2013」を行い、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行った。参加人数：64名</p> <p>大阪医科大学： 近畿3拠点合同事業FD講習会(平成25年11月12日)を実施。大阪府、京都府、兵庫県、三重県の自治体関係者及び近畿3拠点事業推進責任者によるシンポジウム及び特別講演を行った。</p> <p>三重大学： 【コース共通】三重大学が主催し、地域がん登録全国協議会の学術集会を開催した。三重県医師会、津地区医師会、日本痔臓学会と連携し、パープルリボンin津を開催した。三重県内のすべてのがん診療連携拠点病院と地域の医療機関、三重県医師会、三重県病院薬剤師会、三重県看護協会と連携したがんチーム医療研究会を年2回開催し、がん医療に関するセミナー、情報交換を行っている。 【コース共通】パープルリボンin津(平成26年9月14日、約200名参加)。第17回がんチーム医療研究会(平成26年9月12日、98名参加)、第18回は平成27年3月13日予定。</p> <p>【薬剤師コース】日本病院薬剤師会と連携し、平成26年度第2期がん薬物療法認定薬剤師研修を三重県下の2名の薬剤師に対して実施した。(研修期間平成27年1月5日から3月20日)。研修期間中には、医師、薬剤師、看護師16名による1時間の講義を行い、研修生のみならず、大学院生、薬剤部職員も参加した。 【薬剤師コース】平成26年度第2期がん薬物療法認定薬剤師研修(平成27年1月5日から3月20日)。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	三重大学	16	593	17	573	13	438	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278																																																						
	三重大学	16	593	17	573	13	438																																																						
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620																																																						
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584																																																						

25	<p>がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、</p>	<p>【看護師養成コース】三重県看護協会と連携した三重がん看護フォーラム、日本緩和医療学会と連携した三重大ELNEC-J、三重がん看護専門看護師会との連携による共同勉強会、三重県がんにおける質の高い看護師育成研修を開催した。</p> <p>【看護師養成コース】三重がん看護フォーラム(平成26年5月17日、約110名参加)、三重大ELNEC-J(平成26年10月18・19日42名参加)。CNS勉強会(年9回、147名参加)、三重県がんにおける質の高い看護師育成研修(40日間;9月8日~11月21日、8名参加)</p> <p>滋賀医科大学: ・平成26年度:5回(開催予定1回含む) 325名参加 ・平成26年度「滋賀CINV講演会」を開催(36名参加)、「滋賀緩和医療講演会」を開催(62名参加)、「Meet the Expert」を開催(25名)「第12回滋賀県5大がん地域連携バス研修会」(202名参加)し、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行った。平成26年度滋賀県がんと向き合う週間企画「がん治療と生殖医療」を平成27年2月11日に開催予定。</p> <p>大阪医科大学: 三島圏域がん研究会(5/22・9/11)、三島圏域緩和ケア研修会(6月14・15日実施)、がんセンター講演会(研修会)(6/19・9/30・10/9・11/28・2/3・3/10)を実施。(計6回・参加者248名)</p>	
26	<p>多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、</p>	<p>達成目標指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5年間での多職種連携教育(がんチーム医療研究会(10回・450名)を目標 ○ 多職種連携教育の取組推進を目標 <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取組み状況</p> <p>毎年度、京都大学では、高精度放射線ワークショップ(年3回・6名)、チーム医療研修会(年6回・72名)を開催、三重大学では、チーム医療研修会(年2回・200名)、滋賀医科大学においては、緩和ケア研修会(年1回・30名)、大阪医科大学では、緩和ケア事例検討会(年1回)及びOMC緩和ケアセミナー(年1回)が開催され、順調に事業が進捗している。</p> <p>26年度取組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、がんチーム医療研修(5回)(薬剤師・看護婦・医師46名参加)、がんチーム医療研修フォーアアップ研修会(1回・30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第26回)(医師・技師・医学物理士4名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(1回)(医師・技師・医学物理士116名参加)を実施。 また、25年度のソウル大学との合同教育セミナーに引き続き、26年度は、5大学間の人材交流、多職種交流を図るため、「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」を実施(手術療法コース、抗悪性腫瘍コース等各専門コースより14名参加)</p> <p>なお、25年度より、従来の京都大学版e-learningに加え、全国版(筑波大学版)e-learning 講義の受講を可能とし、より分野横断的、多職種連携教育が推進される。</p> <p>三重大学: 三重大学緩和ケアセミナーを年4回開催し、多職種の参加を呼びかけている。三重県がんにおける質の高い看護師育成研修、三重大学医学部附属病院がん看護初級者研修に医師・薬剤師が講師として参加した。三重大学緩和ケアセミナーを年4回開催し多職種の参加を呼びかけている。 三重大学医学部附属病院緩和ケアチームと三重県内5病院をインターネットで結び、多職種緩和ケアテレビカンファレンスを1回・月開催した。 三重大学緩和ケアセミナー(第5回平成26年7月17日96名参加、第6回平成26年10月16日100名参加、第7回平成27年1月22日106名参加)。 三重県がんにおける質の高い看護師育成研修(9月8日~11月21日まで、8名終了)。 三重大学医学部附属病院がん看護初級者研修。 多職種緩和ケアテレビカンファレンス(毎月第3木曜日18時~19時開催)</p> <p>滋賀医科大学: ・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コースで多職種での教育推進、連携を図った。 ・平成26年度:2回実施 334名参加 ・平成26年度地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース 第6回:150名、第7回184名 (第8回は平成27年1月31日の予定)</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学では既に他職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。また、がんセンターによるがんセンターボードとして講演会を11月28日に開催した。</p>	

27	<p>がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間でのがん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会 50名を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>毎年度、三重大学において、緩和ケア修了者に対する「フォローアップ研修会」(年1回・25名)を開催し、がん診療連携拠点病院での緩和ケア教育が実施されている。また、京都大学においても、京都府健康福祉部とも連携した「緩和ケア研修会」、「ELNEG研修会(エンドオブライフケア研修)」を開催するなど、緩和ケア教育の充実に努め、順調に事業を進捗させている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度、京都大学では、京都府健康福祉部とも連携して、「緩和ケア研修会」(2014/6/14-6/15)40名参加、「ELNEG-J研修会」(エンドオブライフケアについて)(2014/10/11-10/12)72名参加、また、「がん看護に関する研修」(9/11,9/25,10/9,10/23,11/13,11/27,12/11,12/25,1/8,1/22)各回20名参加、「レベルアップ研修」(9/8-10,10/28)11名参加を実施</p> <p>三重大学: 緩和ケア研修会終了者に対するフォローアップ研修会を年1回開催している。 緩和ケアフォローアップ研修会(27年2月15日、42名参加)。</p> <p>滋賀医科大学: ・緩和ケアに関わる医療従事者向けの緩和ケア講演会を開催している。 ・平成26年度 緩和ケア講演会:2回実施 ・平成26年度 緩和ケア講演会:2回実施(7月3日、10月23日)</p>	
28	<p>各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>京都大学では、「がんチーム医療研修」(年6回)、高精度放射線治療ワークショップ(年2回)、「放射線腫瘍研究会プログラム」(年1回)を実施、また、三重大学においては、三重県内のがん診療連携拠点病院の医療チームが参加する「がんチーム医療ワークショップ」(年1回)を実施、滋賀医科大学においては、滋賀放射線治療連絡協会と連携した「滋賀放射線治療勉強会」を実施するなど、各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修が推進され、順調に事業が進捗している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、がんチーム医療研修(5回)(薬剤師・看護婦・医師46名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第26回 2014.11.8-9)(医師・技師・医学物理士4名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(1回)(医師・技師・医学物理士116名参加)を実施。 また、各コースでは、神戸大学と共催し、大阪医科大学、滋賀県立成人病センター、大阪府立成人病センター、兵庫県立がんセンター、神戸低侵襲がん医療センター、淀川キリスト教病院などが参加する「第11回関西がんのリハビリテーション研究会」に履修生を派遣(平成26年9月13日)(リハビリテーションコース)</p> <p>滋賀医科大学: ・平成26年度 帝京大学がんセンターでのがんプロ大学院講義:2回実施 ・東北臨床腫瘍セミナーでの東北がんプロコース受講者向けセミナー:1回 ・平成26年度 帝京大学がんセンターでのがんプロ大学院講義を2回実施し多職種による先進医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・東北臨床腫瘍セミナーで東北がんプロコース受講者に先進医療推進の方策に関して啓蒙した。</p>	
29	<p>地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組 230件を目標</p>	

地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> </tr> </tbody> </table>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	三重大学	16	593	17	573	13	438	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	
	事項			大学名	24年度		25年度		26年度																																																			
開催数		参加人数	開催数		参加人数	開催数	参加人数																																																					
各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278																																																					
	三重大学	16	593	17	573	13	438																																																					
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620																																																					
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248																																																					
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																					
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584																																																					
29	<p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>毎年度、京都大学では、高精度放射線ワークショップ(年3回)、チーム医療研修会(年6回)、がん専門薬剤師養成研修(年2回)などを開催、三重大学では、チーム医療研修会(年2回)、がん患者の医科歯科連携講習(年3回)などを開催、滋賀医科大学では、地域連携バス研修会、地域医療機関との合同カンファレンス(年5回)、地域医師への緩和ケア研修会(年2回)などを開催、大阪医科大学では、三島圏緩和ケア研修会(年1回)を開催、地域医療貢献の取り組みを推進させ、順調に事業を進捗させている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、がん専門薬剤師養成研修を年2回実施、(26.7.8、27.21)、がんチーム医療研修(5回)(薬剤師・看護師・医師46名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第26回 2014.11.8-9)(医師・技師・医学物理士4名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(1回)(医師・技師・医学物理士116名参加)を実施。また、「緩和ケア研修会」(2014/6/14-6/15)40名参加、「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)(2014/10/11-10/12)72名参加が実施された。</p> <p>また、各コースにおいても、 (リハビリテーションコース)コース履修生1名が京自助具館自助具専門相談員として活動、また京都滋賀摂食嚥下を考える会福祉食器開発プロジェクトに参画。またコース修了生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当。</p> <p>(婦人科コース)研修医・修練医のため産婦人科サマーセミナー(8月4日)、温知会サマーユニカルフォーラム(7月21日)京都少子化問題研究会(10月13日)を実施</p> <p>三重大学： 【医師養成コース】地域医療機関の医師が参加する緩和ケア研修会と緩和ケアフォローアップ研修会を年1回開催している。緩和ケア研修会(27年1月11,12日、36名参加)、緩和ケアフォローアップ研究会(27年2月15日、42名参加)。 【看護師養成コース】三重県がん看護に関わる専門看護師・認定看護師の合同勉強会を開催し、最近のがん医療における話題や事例検討などを行い、互いに研鑽の機会としている。専門看護師・認定看護師合同勉強会(3月・8月開催、平均15名参加)。</p> <p>滋賀医科大学： ・滋賀県と協力し、国庫補助事業の「地域医療支援センター運営事業」を活用し滋賀県医師キャリアサポートセンターを設置し、地域の医療機関との連携を図っている。 ・平成26年度2回：6月29日、11月16日に滋賀県医師会に所属する診療所および病院と滋賀医科大学外科学講座の医師の目に見える連携をめざす「病診連携フォーラム」を開催。 ・「滋賀CINV 講演会」(36名参加)、「滋賀緩和医療講演会」(62名参加)、「Meet the Expert」を開催(25名参加)、「第12回滋賀県5大がん地域連携バス研修会」(202名参加)し、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行った。平成26年度滋賀県がんとうき合う週間企画「がん治療と生殖医療」を平成27年2月11日に開催予定。</p> <p>大阪医科大学： 三島圏域がん研究会(5/22・9/11)、三島圏域緩和ケア研修会(6月14・15日実施)、がんセンター講演会(研修会)(6/19・9/30・10/9・11/28・2/3・3/10)を実施。(計6回・参加者248名)</p>																																																											
30	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間での市民公開講座等一般向け講演会の開催 15件を目標</p>	<p>市民公開講座等一般向け講演会の開催数、</p>																																																										

	市民公開講座等 一般向け講演会 の開催数、	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における市民向け の公開講演会・セミナー等</td> <td>京都大学</td> <td>5</td> <td>739</td> <td>5</td> <td>714</td> <td>2</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2</td> <td>585</td> <td>3</td> <td>989</td> <td>2</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>6</td> <td>373</td> <td>14</td> <td>936</td> <td>5</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2</td> <td>320</td> <td>3</td> <td>430</td> <td>1</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>15</td> <td>2,017</td> <td>25</td> <td>3,069</td> <td>10</td> <td>795</td> </tr> </tbody> </table>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における市民向け の公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	三重大学	2	585	3	989	2	380	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		15	2,017	25	3,069	10	795	
		事項			大学名	24年度		25年度		26年度																																																			
開催数	参加人数		開催数	参加人数		開催数	参加人数																																																						
各年度中における市民向け の公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122																																																						
	三重大学	2	585	3	989	2	380																																																						
	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213																																																						
	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		15	2,017	25	3,069	10	795																																																						
30		<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>京都大学では、京都府立大学との他拠点大学との連携による「府民公開講座」を毎年度、また、乳がんにかかる「市民公開講座」(毎年度3回)、リハビリにかかる公開講座(年1回)を開催、社会的ニーズに併せた市民公開講座の開催に努めている。また、三重大学では、がん患者の医科歯科連携協議を進め、三重県庁で、県知事も交えた医科歯科連携の協定調印式後に、がん患者の医科歯科連携の三重県民への啓発のための市民公開講座を開催するなど、目標を上回る成果があり順調に事業が進捗している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学においては、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、26年度においも、他拠点大学(京都府立医科大学)との連携で、府民公開講座を開催(27.2.22)参加者280名、また、各コースにおいても、(リハビリテーションコース)「がんリハビリテーション」特別講演(26.8.22)、(手術療法コース)第10回『京都乳がん市民公開講座』(26.10.26)を実施した。</p> <p>三重大学: がん医療についての一般向け市民公開講座を年2回開催している。 市民公開講座(26年5月25日、200名参加)、市民公開講座(27年3月1日開催)</p> <p>滋賀医科大学: ・市民講座を行い、医療関係者でない方にもがんについての情報を共有してもらうように努めた。 ・平成26年度 開催数:7回(開催予定1回含む)499名参加 ・びわこ放送「生き生き健康ライフ」:6名講師出演。 ・平成26年度 滋賀県がん医療フォーラムの企画・司会として、今後のがん医療の取組みなどを紹介した。 ・びわこ放送「生き生き健康ライフ」に「がん患者・家族のための相談支援」、「医療の進歩」をテーマに6回にわたり6名の講師が出演担当。</p> <p>大阪医科大学: がんセンター市民公開セミナー「みんなで学ぼう。がん医療」</p>																																																											
31	インテシブ事業 を活用した地域 医療貢献の推進 状況、	<p>達成目標指標</p> <p>○ インテシブ事業を活用した地域医療貢献の推進を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>京都大学においては、「地域がん医療を担う薬剤師研修会」(年2回)、「がんチーム医療研修」(年6回)、「高精度放射線治療ワークショップ」(年2回)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(年1回)を実施、三重大学においては、「がんチーム医療研究会」(年2回)、「治療早期からの集学的緩和ケアを考える会」(年1回)、滋賀医科大学においては、「薬剤師セミナー」(年3回)、「滋賀県がん薬物療法conference」(年3回)を、継続して地域医療への貢献を毎年度行うことにより、順調に事業を進捗させている。</p>	京都大学: (資料9) 「インテシブコース実施事業・その他開催事業」のとおり																																																										

31	<p>インテシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、</p>	<p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: インテシブコース 地域がん医療を担う薬剤師養成コースでは、「The difference of pharmaceutical service in oncology, inpatient and outpatient pharmacy between Kyoto University Hospital and National Taiwan University Hospital」講演会(26.7.8)(80名)、京都府薬剤師会との共催で、第3回地域がん医療を担う薬剤師養成インテシブコースを開催(27年2月21日、参加者80名) 外来がん化学療法チーム養成コースでは、「がんチーム医療研修」(5回・地域関連病院薬剤師・看護師・医師46名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加)を実施 高度放射線治療を担う人材養成コースでは、「高精度放射線治療ワークショップ」第26回11月8-9日(技師・医学物理士 4名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(26.10.11)(1回・116名参加)</p> <p>三重大学: インテシブコースのセミナーとしてがんチーム医療研究会を年2回、早期からの集学的緩和ケアを考える会を年1回開催し、地域の医療機関でがん診療に従事する多職種に参加を呼びかけている。 第17回がんチーム医療研究会(平成26年9月12日、98名参加)、第18回は平成27年3月13日予定。早期からの集学的緩和ケアを考える会(26年4月24日、61名参加)。</p> <p>滋賀医科大学: ・薬剤師・放射線コースのインテシブセミナーの一環として、薬剤師を集めてのセミナーを開催し、地域医療連携を強めている。 ・地域の薬物療法を支える薬剤師養成コース:開催数7回/合計参加者数444名 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:3回、334名参加(4月19日/150名、10月5日/184名、平成27年1月31日予定) 滋賀県がん薬物療法conference:4回、110名参加(7月2日/38名、9月3日/39名、11月9日/33名、平成27年3月4日予定)</p>	<p>京都大学: (資料9) 「インテシブコース実施事業・その他開催事業」のとおり</p>																															
32	<p>本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 本事業概要等の発行、ホームページの充実を目標</p> <table border="1" data-bbox="379 1099 1145 1317"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数</td> <td>事業全体(京都大学)</td> <td>84</td> <td>93</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>14</td> <td>19</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>113</td> <td>128</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>拠点としての「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の概要を作成し、がんプロの目的、必要性、各大学の役割分担などの紹介に努めている。また、ホームページにおいて、特別講演、フォーラム、シンポジウムなどの開催情報を掲載することにより、広く市民、地域への医療関係者、学生への参加案内を行っており、さらに、ホームページでは、毎年度実施している外部評価結果についても掲載し、広く社会に実施事業の理解をいただけるよう発信・充実に努め、当初目標どおり効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、(5大学連携)「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」パンフレットを発行 また、ホームページ「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を開設し、トピックスコーナーにおいて、5大学のシンポジウム、フォーラム等の開催案内、外部評価結果を掲載するなど、広く社会への情報提供に努めている。</p> <p>三重大学: 三重大学がんセンターのホームページ、年報に本事業の詳細な内容についての案内を掲載し、がんプロのパンフレットを作成し、がんプロ関連の講演会開催時に配布している。</p>	事項	大学名	24年度	25年度	26年度	がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数	事業全体(京都大学)	84	93	51	三重大学	14	19	13	滋賀医科大学	14	16	15	大阪医科大学	0	0	0	京都薬科大学	1	0	0	計		113	128	79	<p>http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」</p>
事項	大学名	24年度	25年度	26年度																														
がんプロフェッショナル養成基盤推進プランホームページの更新回数	事業全体(京都大学)	84	93	51																														
	三重大学	14	19	13																														
	滋賀医科大学	14	16	15																														
	大阪医科大学	0	0	0																														
	京都薬科大学	1	0	0																														
計		113	128	79																														

32	<p>本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況</p>	<p>滋賀医科大学: 附属病院腫瘍センターのホームページでがんプロなど本事業についての情報を組み込んでおり、定期的に情報をアップデートしている。</p> <p>大阪医科大学: 本事業全体の概要等については、主管校の京都大学に情報を集約し発信している。 (http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/)</p> <p>京都薬科大学: 専用の媒体は制作していないが、大学ホームページでの紹介を行っている。 (http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project/cancer.html)</p>	<p>http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」</p>
33	<p>県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 県内でのがん対策の企画、立案への貢献を目標</p> <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取組み状況</p> <p>三重大学では、がん検診制度管理検討委員会、がん患者医療連携会議などに参加、滋賀医科大学では、滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に参加、大阪医科大学では、大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会に参加、また、京都大学では、京都府がん医療戦略推進会議の各部会、各WGに参加し、各度医学ともに府県内におけるがん対策の企画立案に大きく貢献しており、順調に事業を進捗させている。</p> <p>26年度取組み状況</p> <p>京都大学: 京都府がん医療戦略推進会議の各部会活動に参加し、府内におけるがん対策の企画立案に貢献(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会) また、各WGにも参加し、府内におけるがん対策の企画立案に貢献(胃がん地域連携/パスWG、肺がん地域連携/パスWG、大腸がん地域連携/パスWG、乳がん地域連携/パスWG、肝がん地域連携/パスWG、前立腺がん地域連携/パスWG) 各コースにおいては (リハビリコース) コース履修生1名が京自助具館自助具専門相談員として活動、また京都滋賀摂食嚥下を考える会福祉食器開発プロジェクトに参画。またコース修了生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当。 (婦人科コース) ①京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。</p> <p>三重大学: 三重県のがん診療連携協議会と三重県歯科医師会の間でがん患者の医科歯科連携についての協議を行っている。三重大学が主催し、地域がん登録全国協議会の学術集会を開催した。 三重県のがん診療連携協議会を6月9日に開催(三重県のがん診療連携拠点病院6病院、がん診療連携推進病院10病院の院長と三重県歯科医師会の代表者が参加し、医科歯科連携の進め方について協議した。 地域がん登録全国協議会の学術集会を開催し、シンポジウムで、今後のがん登録の活用方法について協議した(平成26年6月12、13日開催、296名が参加した)</p> <p>滋賀医科大学: 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定に取り組んだ。</p> <p>大阪医科大学: 大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会等において、各種研修会等の企画・立案等を行い貢献している。</p>	

34	<p>ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取り組み、</p>	<p>達成目標指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を目標 <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>三重大学では、三重県内のがん診療連携拠点病院を中核とした周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域連携ネットワーク網の拡大を進め、ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を推進、滋賀医科大学では、東近江医療圏メーリングリスト、ならびに診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修情報が発信され、京都大学では、インターネットアクセスを利用した関連病院からの京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としているなど、ITを用いた効率的な連携を推進させ、順調に事業を進捗させている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院が京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としている。(放射線コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的なこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。(手術療法コース)</p> <p>三重大学: 三重県内のがん診療連携拠点病院が中核となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域連携ネットワーク網の拡大を進めている。 【コース共通】平成27年1月までの時点で、情報開示用のサーバー設置施設が16施設、ネットワークに参加し、情報閲覧可能な施設が196施設となり、登録患者数は4,966名となっている。 【医師養成コース】近畿3拠点合同事業FD講習会に近畿3拠点の事業推進責任者と自治体のがん医療行政担当官が参加し、がんプロ事業を地域連携にどのように生かすかについて討議を行った。</p> <p>滋賀医科大学: 東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。</p>
35	<p>テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取り組み、</p>	<p>達成目標指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上を目標 <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取り組み状況</p> <p>三重大学では、三重県内6カ所の病院が参加した他職種緩和ケアカンファレンス(テレビカンファレンス)を年・12回行っている。(1th Asia Pasific Oncology Nursing Society (Bangkok)にて学会発表)、また、滋賀医科大学においても、東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築し、京都大学においても、テレカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的開催しており、多職種カンファレンスによる府県内の医療の質向上を進め、順調に事業を進捗させている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: テレカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的開催している。(手術療法コース)</p> <p>三重大学: 三重県内6カ所の病院が参加し、他職種緩和ケアカンファレンスを毎月行っている。タイムリーに解決困難な事例について、互いの専門職を利用し、施設を超えた検討を行っている。 他職種テレビカンファレンス12回(1回/月)実施。</p> <p>滋賀医科大学: ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。</p>

36	<p>がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ がん医療に関係する企業等との共催・連携推進を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>がん医療に関係する企業等との共催・連携によるセミナー・講演会の開催を推進し、広く医療関係者への技術、知識の普及、一般市民へ正しい知識の普及が行われるよう努めており、京都大学、滋賀医科大学、三重大学の各大学ともに毎年8件程度の共催・連携によるセミナー・講演会を実施、順調に事業を進捗させている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 第28回京都在がん研究会(26.10.10)を、プリストル・マイヤーズ(株)との共催で実施。 『各がん種における分子標的薬の現状と今後 各がん種における分子標的薬の現状と今後 — コンパニオ診断、治療戦略副作用対策も含めて』座長:がん薬物治療科准教授 准教授 松本 繁巳、講師 金井 雅史 『抗 PD-1抗体(抗体(Nivolumab)を用いた医師主導治験～ 卵巣癌への新しい治療開発を目指して～ 卵巣癌への新しい治療開発を目指して～』座長:がん薬物治療科 教授 武藤 学、産婦人科学 助教 濱西 潤、 第10回京都乳がん市民公開講座(26.10.26)を、第一三共(株)の共催で実施、 第21回京都乳癌コンセンサス会議を、エーザイ(株)との共催で実施、</p> <p>三重大学: 【医師養成コース】製薬企業と共催・連携してがん関連のセミナー、講演会を文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン推奨セミナーとして開催している。 平成26年度は既に16回開催しており、カウントできた参加者が延509名となった。</p> <p>滋賀医科大学: ・平成26年度:製薬会社、共催セミナー数全18回中(開催予定4回含む)9回</p>	
37	<p>コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間のプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成 50件を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成 50件の目標に対して、24年度 32件、25年度 33件、26年度 38件、3年間ですでに103件の、がんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、がんプロ履修生の研究者養成に向けた取り組みを、順調に進捗させ、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度 38件 (24年度 32件、25年度33件) 「資料11(プロトコル作成への関与状況一覧)のとおり</p> <p>滋賀医科大学: ・院内化学療法室で調剤するすべてのレジメンについて、医療安全の確保、がん薬物療法の標準化、院内業務の効率化を目指し、化学療法プロトコル審査委員会で審査および管理を行っている。 ・平成26年度:新規レジメン53レジメン登録 ・新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コースの学生が研究テーマのみプロトコルに関与した。</p>	<p>京都大学: (資料12) 「プロトコル作成への関与一覧」のとおり</p>
38	<p>国際学会、英文誌への研究論文発表数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間の国際学会、英文誌への研究論文発表 100件を目標</p>	<p>京都大学: (資料10) 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」のとおり</p>

38	<p>国際学会、英文誌への研究論文発表数、</p>	<p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を重点目標として目指し、国際学会、英文誌へのがんプロ履修生による教育研究論文発表を推進しており、24年度における国際学会・英文誌等への発表数25件、25年度78件、26年度(10月31日まで)39件、3年間で合計142件を達成し、5年間での国際学会、英文誌への研究論文発表 100件の目標を大きく上回る効果・成果が達成されている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26年度 46件(24年度 23件、25年度 34件) 資料10 (国際学会・英文誌への論文発表一覧のとおり)</p> <p>三重大学: 国際学会、英文誌への研究発表に関しては、各コースのコーディネーター、関連する診療科が指導、教育を進めている。</p> <p>滋賀医科大学: 年1回学会での研究成果発表を行い、研究成果をまとめ、研究論文の発表を推進している。 【国際学会、英文誌への論文発表】 (平成26年度 4件)</p> <p>京都薬科大学: 国際学会、英文誌へ、6件の発表が行なわれた。 資料9(国際学会・英文誌への論文発表一覧のとおり)</p>	
39	<p>学会への研究論文の発表推進への取組み、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 学会への研究論文の発表推進を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものと考えられ、国内外の学会・シンポジウムでの履修生による研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の基、発表論文名、参加学会名、得られる成果等を記載させ、がんプロ養成委員会において審査のうえ、学会等への発表参加を押し進めている。これにより、履修生による教育研究意欲が大きく向上し、発表論文数は増加しており、事業を順調に進捗させ、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 24年度、25年度に引き続き、「26年度 がんプロ養成管理委員会」においても、国際的視野を有した研究者養成のため、国際学会での発表に積極的に参加させるとともに、国内においても研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させている。</p> <p>三重大学: 学会への研究論文の発表に関しては、各コースのコーディネーターが責任を持って指導、教育に当たっている。がんプロ大学院生の国内外学会出張に対しては、交通費等の経済的支援を行っている。 【看護師養成コース】コース履修生が日本緩和医療学会5名参加し、1名が発表を行った。</p> <p>滋賀医科大学: ・海外研究機関への研修派遣、国際学会への参加を促し、研修、学会発表の際には旅費支援をしている。・平成26年度 1件</p> <p>大阪医科大学: コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合、旅費等の一部支給等の助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学: 研究機関での研修については、各大学院生の指導教授が、受入機関の責任者と直接意見交換し、研修内容を検討し、決定している。また、国内学会での研修については、指導教授が同行して行っている。 研究機関: 京都大学医学部附属病院、 国内学会: ・第52回日本癌治療学会学術集会、・第73回日本癌学会総会・日本医療薬学会第24回年会</p>	<p>京都大学: (資料10) 「国際学会、英文誌への論文発表一覧」のとおり</p> <p>(資料10-2) 「国内学会誌、和文雑誌への論文発表一覧」のとおり</p>

40	<p>先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 5年間の海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を重点目標として目指し、海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等へのがんプロ履修生の参加 60人を目標として、24年度26人、25年度 43人、26年度(10月31日まで)23件と、3年間で既に合計92件を達成し、5年間の目標60人を大きく上回る効果・成果を達成している。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 26度 23件(24年度 26件、25年度 34件)</p> <p>資料10「がんプロ学生海外派遣一覧」のとおり、</p> <p>三重大学: コース履修者の研修派遣、国際学会への参加に対しては、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学: ・海外研究機関への研修派遣、国際学会への参加を促し、研修、学会発表の際には旅費支援をしている。 ・平成26年度 1件</p> <p>大阪医科大学: ASCO-GI(Gastrointestinal Cancers Symposium)2015へ1名参加。</p>	<p>京都大学: (資料11) 「海外学会・シンポジウム参加状況」のとおり</p>
41	<p>がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取り組み状況、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制の整備を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取り組み状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生が国内外学会に参加し、先進的研究機関において研修に参加させることは養成上必要不可欠であり、上記による国際学会への発表推進を行うとともに、連携大学間交流、多職種交流、先進的がん研究機関との交流を推進させるため、「事業推進運営委員会」決議に基づき、国際交流事業「5大学連携 ソウル大合同教育セミナー」を実施させるサポート体制を構築、事業は順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>26年度取り組み状況</p> <p>京都大学: 24年度、25年度に引き続き、26年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、研究成果を発表させるため国内外学会への積極的な参加を推進するとともに、横断的・専門的教育の実施知識を得るための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させた。 さらに、26年度においては、25年度に実施の「ソウル大学との合同教育セミナー」に引き続き、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として、先進的がん教育研究に取り組んでいる「国立台湾大学」との合同教育セミナーを実施。京都大学8名、三重大学1名、滋賀医科大学1名、大阪医科大学3名、京都薬科大学1名の14名が参加した。</p> <p>三重大学: がんプロ大学院生の国内外学会出張に対しては、交通費等の経済的支援を行っている。 【看護師養成コース】コース履修生が日本緩和医療学会5名参加し、1名が発表を行った。</p> <p>滋賀医科大学: ・がんプロコースに在籍する大学院生が、養成のため教育研究上必要と認められ学会等に酸化する場合、旅費等の必要経費はがんプロ経費から支払い、負担がかからないようにしている。 ・新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース在籍の大学院生2名は、学内経費によるTA支給と国内の財団から奨学金支給の支援を受けている。</p>	<p>京都大学: (資料11) 「海外学会・シンポジウム参加状況」のとおり</p> <p>(資料11-2) 「国内学会・シンポジウム等参加、教育研修・研究施設視察参加状況」のとおり</p>

41	<p>がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、</p>	<p>大阪医科大学： コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合、旅費等の一部支給等の助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学： 京都薬科大学：研究機関での研修については、各大学院生の指導教授が、受入機関の責任者と直接意見交換し、研修内容を検討し、決定している。また、国内学会での研修については、指導教授が同行して行っている。 研究機関 ・京都大学医学部附属病院 ・滋賀医科大学医学部附属病院 国内学会 ・第17回日本がん分子標的治療学会 ・第72回日本癌学会総会 ・第5回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース</p>	
42	<p>がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ がん研究基盤の発展構築を目標</p> <p>事業中間(24.4.1～26.10.31)取組み状況</p> <p>24年度、基盤構築に向け「京都大学腫瘍薬物治療学講座分野」「三重大学放射線腫瘍学講座」「滋賀医科大学総合臨床腫瘍学講座」を設置し、25年度においては、大阪医科大学がんセンター設置、京都大学附属病院がん薬物治療科設置、26年度においては、京都大学「臨床システム腫瘍学寄附講座」設置、京都大学附属病院緩和医療科設置、また、毎年度、新たな医療チームを導入し、研究基盤・医療基盤の発展構築へ向けた取組みを推進させ、事業を順調に進捗させている。</p> <p>26年度取組み状況</p> <p>京都大学： 医学研究科において、「臨床システム腫瘍学寄附講座」を設置、また、医学部附属病院においては、緩和医療科を設置し、がん研究基盤の発展に努めている。 各コースにおいても、 (薬剤師コース) がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、有害事象発現との関連も検討している。 (次世代の臨床試験を担う人材育成コース) がんプロ大学院生、医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、CRC、作業療法士などから多職種チーム会議を月1回開催し、特にコメディカルが主体となって行う臨床試験の計画・遂行を支援してきた。結果解析中の試験が一つ(責任者:作業療法士)、施行中の試験が3つ(責任者:腫瘍内科医、作業療法士、CRC)、計画中の試験が3つ(責任者:看護師、腫瘍内科医、乳腺外科医)である。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動物追尾照射を開始している。肺癌・肝癌・膵癌に対する動物追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし、厚生労働科学研究費がん対策推進研究事業の革新的がん医療実用化研究事業より平成26-28年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している</p> <p>(婦人科コース)①卵巣明細胞腺癌のエクソームシーケンシングによる新規分子標的の探索。②卵巣漿液性腺癌の組織形態による細分類と遺伝子発現プロファイルの相関および、それによる化学療法の個別化。③卵巣癌の足場非依存性増殖能に関わる新規分子の探索。④卵巣癌細胞の「幹細胞化」をもたらす因子の探索。⑤卵巣癌における抗VEGF抗体獲得耐性機序における腫瘍免疫の関与。⑥卵巣明細胞腺癌における代謝が酸化ストレス抵抗性をもたらす機序の解明。⑦卵巣明細胞腺癌におけるSWI/SNF complexの異常が染色体不安定性に及ぼす影響。⑧新規免疫抑制分子VISTAの卵巣癌・子宮内膜癌におけるはたらき。⑨卵巣癌腹膜播種におけるPD-L1発現制御のメカニズム。⑩卵巣癌において、植物性の食事が癌細胞の増殖や化学療法感受性に及ぼす影響。⑪卵巣癌における化学療法によるPD-L1発現亢進のメカニズムと、抗PD-1抗体と化学療法を併用するchemoimmunotherapyについて。⑫子宮体部漿液性腺癌の化学療法抵抗性にSTAT-1が関与するメカニズムの解明。⑬卵巣癌の予後悪化をもたらすMDSCのサブタイプの探索。⑭次世代シーケンシング技術を用いた子宮体部癌肉種のintratumor heterogeneityの探索と腫瘍の「進化」経路の解明。⑮卵巣癌におけるEMTが腫瘍免疫抑制を生じるメカニズム。</p> <p>三重大学： ラジオ波治療、凍結療法後の宿主の免疫能解析に関して、臨床、基礎が連携した研究基盤の構築を進めている。 ラジオ波焼灼と凍結療法における免疫反応因子に関する解析研究が倫理委員会で承認され、25年11月より臨床検体を用いた研究を開始し、平成26年度より、マウスを用いたラジオ波焼灼後の免疫学的変化についての研究を開始している。</p>	

42	<p>がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況</p>	<p>滋賀医科大学: ・最先端の機器を購入し、がんブロードコースに在籍する大学院生に機器のトレーニングを行い、研究基盤を支える人材の育成にも力を入れている。 ・次世代シーケンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置などの機器を用いて、がんブロードコースに在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して研鑽を積ませている。 ・臨床実習生に対してもスキルスラボにて「ハンズオンセミナー」を行い次世代腹腔鏡手術機械に関するトレーニングを行い大学院生の勧誘に努めた。(定期的に開催予定)15名 平成26年11月17日</p> <p>大阪医科大学: 三島圏域のがん診療連携拠点病院(5病院)が中心となって運営している三島圏域がん研究会に参加し、がん研究基盤の発展構築へ向けて取り組んでいる。 in vivo 2D/3D 発光・蛍光イメージング IVIS Lumina XR-BFMを設置してがんブロードコース履修生にも開放し、がん性疼痛モデル動物を用いてのがんの増殖・転移などの可視化による研究を行うなど、がん研究基盤の発展構築に向けて取り組んでいる。</p> <p>京都薬科大学: 関連する企業との共同研究は「1件」。 ・新規ペプチド型抗がん剤の設計・合成:株式会社ペプチド研究所</p>	
43	<p>新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○ 新たながん医療分野の開拓推進を目標</p> <p>事業中間(24.4.1~26.10.31)取組み状況</p> <p>京都大学においては、がんバイオバンクを運用開始、遺伝子多型解析やバイオマーカー探索・開発、ゲノムワイドな遺伝子発現データ、三重大学においては、がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験、遺伝子診断研究、滋賀医科大学においては、新たな創薬に向けたがんペプチドワクチン療法の臨床試験研究、大阪医科大学においては、がんに対する標準治療の確立、京都薬科大学においては、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発など、新たながん医療分野の開拓推進に取り組む、事業を順調に進捗させている。</p> <p>26年度取組み状況</p> <p>京都大学: がん患者さんから提供される生体試料のゲノムおよびオミックス情報と、治療前後の経時的な臨床情報を収集し統合するがんバイオバンクをH25年9月より運用開始した。がん化学療法の個別化を目的とした遺伝子多型解析やバイオマーカー探索を進めている。また、バイオ後続品の製剤的な性質についても検討している。(薬剤師コース) ①ゲノムワイドな遺伝子発現データをもとに、がん医療の個別化をはかることを目指している。②がん免疫を賦活させる、免疫療法の臨床試験を行っている。(婦人科コース) 国際共同研究、産学連携研究、多施設共同研究を行い、院生がそこに参加し、新しいがん医療 分野の開拓を目指した研究を遂行できるように、環境を整えるとともに、新規性の高い機器開発、治療標的の探索に関する研究、新しいがんのバイオマーカー開発を行っている (手術療法コース)</p> <p>三重大学: がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験を行っている。肝臓がんだけでなく、肺がん、腎臓がんに対するラジオ波治療、凍結療法を先進医療として行っている。乳がんを中心とした遺伝子診断を行っている。なお、がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験のエントリー数が着実に増加しており、ラジオ波、凍結療法、遺伝子診断の件数も増加している。</p> <p>滋賀医科大学: 附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施している。</p> <p>大阪医科大学: 多施設共同研究へコース履修生が参加し、開拓を目指したがんに対する標準治療の確立等の研究を遂行できるよう環境整備を進めている。</p> <p>京都薬科大学: ④一般病院の薬剤師・医師と広く交流し、現場の問題点を解決し、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発に取り組んでいる。⑤新規の多発性骨髄腫患者に投与しているレナリドマイドの血中濃度を測定し(本学「臨床薬学分野」で実施)、市中病院の薬剤師・医師とレナリドマイドの治療効果および副作用発現率と血中濃度の相関について臨床研究を開始した。</p>	

募集・受入目標・入学人数(24・25・26年度)

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業 年限	養成する専門分野	募集人数					受入目標人数					入学人数					
					H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26			
					計															
①がん教育改革によるがん専門医療人に重点を置くコース	計				20	4	4	4	4	4	15	3	3	3	3	3	10	4	4	2
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	放射線腫瘍医養成コース	4年	放射線治療医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	3	1	1	1
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	乳腺外科専門医養成コース	4年	外科系乳腺専門医	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	5	2	2	1
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	がん専門薬剤師養成コース	4年	がん専門薬剤師	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	1	1	0
②地域がん医療に貢献するがん専門医療人に重点を置くコース	計				62	10	13	13	13	13	59	9	12	12	13	13	21	9	4	8
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	3	1	0	2
	三重大学医学系研究科生命医学専攻	婦人科がん治療専門医養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	10	2	2	2	2	2	7	1	1	1	2	2	2	1	0	1
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0	0
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	2	0	1	1
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線治療	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	0	0	0	0
	大阪医科大学医学研究科医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	4年	がん治療	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	4	2	1	1
	三重大学医学系研究科看護学専攻	チーム医療を促進するがん看護を専門とする看護師養成コース	2年	がん看護	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	8	3	2	3
滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	4年	薬剤師	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0	0	
③がん研究者養成に重点を置くコース	計				128	20	27	27	28	26	104	16	20	23	24	21	120	44	31	45
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース	4年	がん薬物療法学	20	3	4	4	5	4	15	2	3	3	4	3	43	12	12	19
	京都大学医学研究科医学専攻	先端放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	23	3	5	5	5	5	22	3	4	5	5	5	13	3	6	4
	京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	18	3	4	4	4	3	15	2	3	4	4	2	34	13	5	16
	京都大学医学研究科医学専攻	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	10	2	2	2	2	2	8	1	1	2	2	2	4	2	1	1
	京都大学医学研究科医学専攻	高度ながん研究・がんチーム医療を実践できるがん専門薬剤師(研究者)養成コース	4年	薬剤師	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	5	2	1	2
	京都大学工学研究科原子核工学専攻	先端医学物理研究者養成コース	3~5年	医学物理	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	3	1	2	0
	京都大学医学研究科人間健康科学専攻	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース	2年 3年	がんリハビリテーションを専門とする理学療法士・作業療法士、医師	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	7	3	2	2
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース	4年	がん研究医・がん研究者	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	2	2	0	0
	滋賀医科大学医学系研究科再生・腫瘍解析系専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医・外科専門医	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	5	3	1	1
	京都薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻	がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース	4年	臨床腫瘍薬学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	4	3	1	0
	合 計				210	34	44	44	45	43	178	28	35	38	40	37	151	57	39	55

26年度入学実績（京大グループ・全国平均）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	2	50%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	13	8	62%
③ がん研究者養成	27	45	167%
合計	44	55	125%
全国平均			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	404	341	84%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	212	105	50%
③ がん研究者養成	223	189	85%
合計	839	635	76%

25年度入学実績（京大グループ・全国平均）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	4	100%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	13	4	30%
③ がん研究者養成	27	31	114%
合計	44	39	88%
全国平均			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	393	335	85%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	202	113	55%
③ がん研究者養成	218	168	77%
合計	813	616	75%

24年度入学人員（京大グループ・全国平均）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	4	100%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	10	9	90%
③ がん研究者養成	20	44	220%
合計	34	57	203%
全国平均			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	268	209	77%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	73	19	26%
③ がん研究者養成	132	117	88%
合計	476	345	72%

がんプロ学生調査(要望・改善点)

※回答中、「特になし」については掲載を省略

項目	項目2	要望・改善点	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	京大病院において、がん患者さんの治療方針に関するカンファレンスだけでなく、患者ご家族の支援(がん相談支援室主催)なども経験させていただける1年間となり、大変うれしく思っております。	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	修士2年間ということだったと思うのですが、卒業が難しく、現時点では留年することになります。もう1年所属することは可能なのでしょうか。学会参加、発表など、持病の悪化によりほとんど参加することができませんでした。申し訳ありません。 (がんプロの履修生として在籍できますので安心ください。今後の活躍を期待しております。)	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	学会・研究会への参加に関わる経費を援助していただけるのは大変ありがたいです。今後ともよろしく願いたします。	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	特に不満点はありません。 国際学会のみならず国内学会での発表、専門医取得研修等にも助成を頂けるので、心置きなく勉学に励むことができます。	先端医学物理研究者養成コース
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	現在は、まだ、土台を作っている段階で、結果としての業績を残せていませんが、是非、これからも助成等支援をよろしく願いたします。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	様々なプログラムが用意されており、充実した教育がなされていると考える。 もう少し時間がある時に、E-ラーニングを進めたいです。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外の学会発表に際し助成をしていただき、また講演会などの案内を逐一配信していただき、大変感謝しております。専門医取得、論文発表、学会発表に努め、少しでも貢献できますよう努めていく所存です。今後ともよろしく願いたします。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	発表のない学会参加にもある程度の援助をお願いしたいです。また、研究プロジェクトの打ち合わせ等の援助もご検討いただきたいと思ます。 (がんプロ経費は、年々厳しくなっています。)	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足しています。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	平成26年10月より研究開始となりました。まだがんプロ事業へ十分に参加できておりませんが、今後積極的に参加していきたいと思っています。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	特に不満点はありません。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
12	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足しています。	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース

13	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	学会発表の支援など大変助かっております。引き続きよろしく願いいたします。	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース
14	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	講演会などの開始時間を、可能であれば病院業務が落ち着いている、17時以降にさせていただいたら参加しやすいので、可能であればそれくらいの時間からにさせていただけたらありがたいです。(今後、参加しやすい開始時間を検討いたしますが、講演者にとっては、講演のために宿泊が必要となる場合も想定され難しい問題です。)	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース
15	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	海外学会での発表に際して、渡航費助成をいただき、おおいに助かりました。専門医取得に際して、専門医は病院にとっても施設認定の際に必要な資格であるため、がんに関連する専門医試験受験料、認定料なども(予算に余裕があれば)助成の対象となっていたら、よりよいと思います。(がんプロ経費は、養成するための経費で、専門医等の資格を取得できる能力を授ける教育経費であり、受験等の資格取得のための経費は、個人に還元するものであり、費用は出せないことになっています。)	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
16	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	講義を十分に行ってほしいです。(全国E-ラーニング講義の受講をお勧めいたします。)	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
17	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足しています。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
18	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	いつもありがとうございます。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
19	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	以前のがんプロであった緩和ケアコースがなくなっただけなのは残念です。(24年度開始のがんプロでは、緩和ケアコースは無くなりましたが、26年10月より緩和医療科が新設され、チーム医療としての緩和医療の教育研究推進へ向けた取り組みが行われています。また、27年4月より、がんプロに緩和医療学を専門とする教員が配置され、さらに、緩和医療教育研究を推進させます。)	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース
20	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	いつもありがとうございます。特に要望はございません。	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース
21	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	データセンター費用等、臨床研究に必要な費用はがんプロの予算で対応できるようにしていただきたいです。(がんプロの経費は、年度開始前に次年度の執行計画が立てられ、原則、計画に沿った執行が行われています。また、がんプロ経費は単年度ごとの経費であって、年度をまたがる可能性のあるデータセンター契約は好ましくないと考えられています。)	新しいがんリハビリテーション法の開発を担う研究者養成コース
22	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロとしてのキャリアアップのため、旅費助成やソフト面の援助を頂き、大変満足しております。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発を担う研究者養成コース

23	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究支援、学会参加支援をしていただき、本当に助かっております。	新しい婦人科がん治療の開発 を担う研究者養成コース
24	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足度：普通 キャンサーボードなどは何を指しているのかわからない。院内のものなのか。全国的なものなのか。このようなアンケートがあるのであれば、参加したものを覚書できるので通達してほしい。Eラーニングは修了の必須条件ではないと聞いている。 (Eラーニング講義については、必須としているコース、必須としていないコースがありますが、必須でないコースの履修生にも受講することを強く推奨しています。キャンサーボードについては、コースごとに行われている「合同カンファレンス、症例検討会、勉強会」、また、院内において行われているキャンサーボードへの、がんプロ履修生の参加状況を調査しています。)	次世代の手術療法・機器開発 を担う研究者養成コース
25	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	発表する学会参加旅費だけでなく、研究費を出していただけるような募集があるといいと思いました。 (研究者養成のために必要となる教育研究経費は、履修生に募集することなく、養成計画に基づき指導教員が養成上必要となる物品等の購入計画を立てています。)	次世代の手術療法・機器開発 を担う研究者養成コース
26	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	本年度に開催されたメディカルインフォマティクスセミナーの講演内容をEラーニングに掲載していただきたいです。京大のEラーニングを更新していただきたいです。 (メディカルインフォマティクスセミナーの講演については、全国版Eラーニング講義に収録していますので、是非、受講ください。)	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発 を担う研究者養成コース
27	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	現状で特に問題なく、十分に学習させていただいております。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発 を担う研究者養成コース
28	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	普通	次世代の手術療法・機器開発 を担う研究者養成コース
29	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研修費助成によりシンポジウムに参加させていただいた。私は癌細胞の初代培養法を用いた抗がん剤感受性試験について研究しているが非常に活発なdiscussionができ、研究に非常に有用であった。	次世代の手術療法・機器開発 を担う研究者養成コース
30	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	大学院生としては旅費助成など補助は非常にありがたい、研究発表のための学会への参加を金銭的な理由で避ける必要がないことは大変ありがたいです。	次世代の手術療法・機器開発 を担う研究者養成コース
31	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足です。	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発 を担う研究者養成コース
32	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	とても満足しております。	先端医学物理研究者養成コース
33	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	おおむね満足していますが、せっかく大学院にいますのでもう少し教育的な講義(たとえば、癌治療全体を俯瞰するようなまとめの講義や、臨床試験・論文の作法のようなことに関する講義など)があればより良いと思います。 あと、がんプロのイベントの通知が直前になったりすることがありますので、早めに教えていただくと良いと思います。 (全国Eラーニング講義には、がん関連の講義が1000本以上収録されていますので、受講してください。なお、イベントの開催は、がんプロHPに掲載しており、履修生への通知は、見落としのないよう行っているものです。)	先端的放射線治療開発 を担う研究者養成コース

がんの特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任					兼任					設置年月	
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師		助教
京都大学	京都大学大学院医学研究科腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1)化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する	[計画] 教授1(専任)、 准教授1(専任)、 助教1(専任)	3	3	1	1		1		0					H24.09
			2)化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[実施] 教授1(専任)、 助教1(専任)、 助教2(兼任)	4	2	1			1		2				2	
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、 助教1名(専任)	2	2	1			1		0					H24.04
				[実施] 教授1名(専任)、 助教1名(専任)	2	2	1			1		0					
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、 講師(専任)2名、 助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0					H24.10
		その他		[実施] 教授(専任)1名、 講師(専任・兼任)各1名、 助教(兼任)1名	5	3	1		2		2			1	1		

資料 6

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン《次代を担う研究者・医療人養成プラン》 平成26年度 第二回 事業推進運営委員会 議事録（案）

日 時： 平成26年12月15日（月） 11時20分～12時20分

場 所： 京都大学 芝蘭会館 別館2F 会議室

確認事項

- 1) 前回議事録（案）の確認が行われた。 （別添 議事録）
- 2) 「5大学連携医療フォーラム」における、発表スライドの確認、受付等役割について確認が行われた。 （資料 1）
- 3) 「近畿地区3拠点合同フォーラム」のスケジュール、発表者のスライド撮影確認、受付等役割担当についての確認が行われた。 （資料 2）

協議事項

1) 26年度「外部評価」実施方法について （資料 3）

今年度の外部評価の実施については、文科省が実施する中間評価と実施時期が重なることから、文科省が調査する中間評価の期間（24. 4. 1～26. 10. 31）に合わせて、26. 4. 1～26. 10. 31の実績について調査することが確認された。

また、実施方法は、25年度に引き続き「書面評価」、「評価委員3名」とし、「評価項目数・43項目」とすることが確認された。

なお、事業推進責任者より、各大学の特色を活かした事業の拡大に努め、実施されているにも関わらず報告されていない取組みも見受けられるため、実施したものは実績として報告されるよう協力依頼が行われた。

2) 27年度「医療フォーラム」担当大学について （資料 4）

27年度「5大学連携 医療フォーラム」の担当大学について、当初、5大学持ち回り、24年度・京大、25年度・三重大、26年度・京大、27年度・滋賀医科大、28年度・京大とされていたが、開催会場、参加者人数、必要経費等を勘案して、京都大学と滋賀医科大学との合同担当として、特別講演者の選出等については滋賀医科大学、開催会場の手配等については京都大学が担当大学として実施することが確認された。

3) 27年度予算配分方針等について

26年度予算配分は、5,694千円減額となり、各大学同率で減額配分としたところである。27年度についても減額が想定されており、同じく各大学同率で減額配分することが確認された。

また、配分額については、事前に各大学へ連絡調整することが併せて確認された。

報告事項

1) 5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」について（1/9-11）（資料 5）

資料 5に基づき、5大学の14名が参加し、参加履修生全員に、英語により現在取り組んでいる教育研究を発表させるとともに、国立台湾大学との合同セミナー、グループ別セミナーを実施する予定であることが報告された。

2) 「全国がんプロ合同FDフォーラム（がん薬物療法FD）」について

27年1月29日に東京大学で開催される、「全国がんプロ合同FDフォーラム（がん薬物療法FD）」に、京都大学より1チーム（医師、薬剤師、看護師の3名）を参加させることが報告され、各大学からも個人参加するよう、全国がんプロ事業への協力依頼が行われた。

3) 26年度実績報告および27年度計画調書等について

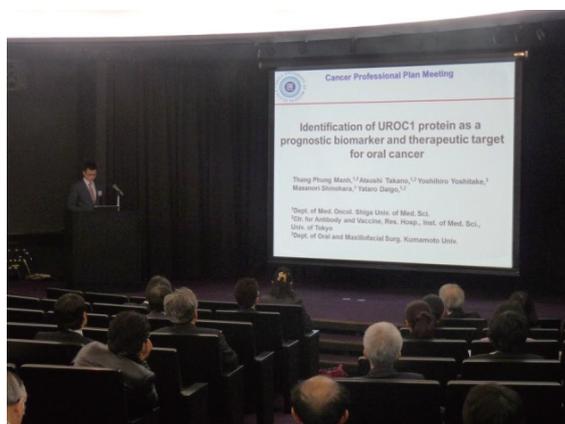
26年度実績報告および27年度計画調書等については、書式が変更され、全シート連結書式となっており、事前に、チェックして記入できるか確認いただきたいとの連絡、併せて、3月期における物品購入等を控え、予算の早期執行を心がけるよう連絡が行われた。

4) 全国版 Eラーニングクラウドについて

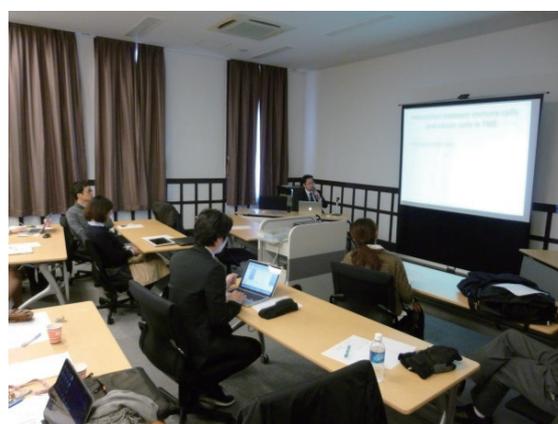
全国版 Eラーニングクラウドへの講義提供については、積極的に協力することが確認されており、今年度未だ収録していない大学は、収録に協力するよう連絡された。また、履修生の聴講登録を積極的に推進させるよう連絡された。

5) その他

本日、開催される「近畿地区3拠点合同フォーラム」および「5大学連携医療フォーラム」について、再度、協力要請が行われた。



がんプロ近畿地区3拠点合同フォーラム



5大学連携台湾大学合同教育セミナー

24年度から新たに導入された医療チーム

新たに導入したがんに関する医療チーム	大学名	名称	分類	活動内容	24年度	25年度	26年度
	京都大学	原発不明がん／希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	○	○	○
	京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」	血液腫瘍に関するチーム医療	○	○	○
	京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん診療		○	○
	京都大学	家族性腫瘍外来ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療		○	○
	京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療		○	○
	京都大学	神経内分泌腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療			○
	三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療			○
	三重大学	口腔ケアチーム	「その他」	がん治療前の口腔ケア		○	○
	滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師6名、看護師・薬剤師がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	○	○	○
	滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	○	○	○
	大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	○	○	○
	大阪医科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療		○	○

事業開始前から設置されていた医療チーム

事業開始前から設置の医療チーム	大学名	名称	分類	活動内容
	京都大学	放射線治療医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践
	京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理
	京都大学	癌緩和ケアチーム	「緩和ケア」	診療科横断的かつ職種横断的診療と教育
京都大学	脳腫瘍／小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	

	大学名	名称	分類	活動内容
事業開始前から設置の医療チーム	京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・放射線治療科合同のカンファレンス
	京都大学	食道癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科・放射線治療科・頭頸部外科からなる集学的診療体制
	京都大学	胃がん/ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	肺癌/ 縦隔腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科・呼吸器外科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	乳癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、腫瘍内科、放射線治療科、放射線診断科、遺伝子診療部等からなる集学的診療体制を構築
	京都大学	膵癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	大腸癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	前立腺癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療
	三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療
	三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理
	三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理
	三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討
	三重大学	乳腺疾患術後検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討
	三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討
	三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強
	三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施
	三重大学	内科小児科合同移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施
	大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療

がんセンターの体制

	がんセンター名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん	放射線科 泌尿器科	◎泌尿器科医、放射線治療医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍 脊髄腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医 放射線治療医 小児科医 看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎乳腺外科医 腫瘍内科医 放射線診断医 放射線治療医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
4	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 放射線治療科 消化器内科 耳鼻咽喉科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、消化器内科医、消化管外科医、放射線治療医、耳鼻科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
5	肺がんユニットカンファレンス	肺がん(一部良性疾患)	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科 放射線診断科 がん薬物治療科	◎呼吸器内科助教、呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
6	膵がんユニットカンファレンス	膵がん	放射線治療科 放射線診断科 肝胆膵・移植外科 消化器内科 がん薬物治療科 緩和医療科 遺伝診療科	◎腫瘍外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	頭頸部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科 放射線治療科	◎耳鼻咽喉科副部長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医	新規患者の検討をする。	全例実施
8	胃がん・GIST	胃がん GIST	消化管外科 消化器内科 血液・腫瘍内科 放射線治療科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
9	大腸がん	大腸がん	消化管外科 肝胆膵外科 消化器内科 血液・腫瘍内科 放射線治療科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、消化管外科医、肝胆膵外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
10	小児がんユニットカンファレンス	各種小児がん、骨・軟部腫瘍	小児科 整形外科 小児外科 放射線治療科 病理診断科 呼吸器外科 泌尿器科 耳鼻科 眼科 精神科	◎小児科医、整形外科医、小児外科医、放射線治療医、病理診断科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、耳鼻科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
11	原発不明がんユニットカンファレンス	原発不明癌 希少癌	血液・腫瘍内科 小児科 肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 がん薬物治療科 乳腺外科 消化器内科 腫瘍内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、血液内科医、小児科医、肝胆膵移植外科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、消化器内科医、整形外科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
12	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	乳腺外科 泌尿器科 放射線治療科 整形外科	◎乳腺外科医、整形外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満
13	がんサポートチームユニットカンファレンス	全種	精神科 血液・腫瘍内科 がん薬物治療科	◎緩和ケア医、精神科医、腫瘍内科医、がん薬物治療科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
14	NETユニットカンファレンス	内分泌細胞癌	肝胆膵移植外科 呼吸器内科 呼吸器外科医 消化管外科 がん薬物治療科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科 糖尿病内分泌代謝内科	◎肝胆膵移植外科医、がん薬物治療科医、腫瘍内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、内分泌代謝内科医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施

研修会・セミナー等実施一覧 (京都大学)

平成26年度 インテンシブコース実施事業

() の数字は参加人数

外来がん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)

14/10/28	がんチーム医療研修会(9)
14/10/29	がんチーム医療研修会(9)
14/11/11	がんチーム医療研修会(9)
14/11/12	がんチーム医療研修会(9)
14/12/09	がんチーム医療研修会(12)
14/12/10	がんチーム医療研修会(12)
15/01/20	がんチーム医療研修会(10)
15/01/21	がんチーム医療研修会(10)
15/02/03	がんチーム医療研修会(6)
15/02/04	がんチーム医療研修会(6)

高精度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)

14/10/11	第38回京都放射線腫瘍研究会プログラム(116)
14/11/08	第26回 高精度放射線治療ワークショップ(4名)
14/11/09	第26回 高精度放射線治療ワークショップ(4名)

地域がん医療を担う薬剤師養成コース(インテンシブ)

14/07/08	The difference of pharmaceutical service in oncology, inpatient and outpatient pharmacy between KUH (Kyoto University Hospital) and NTUH (National Taiwan University Hospital)(80)
15/02/21	第3回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(100)

26年度 その他 開催事業

14/04/17	iPS and Stem Cells in Cancer Research(141)
14/07/09	米国におけるがん薬物治療と緩和医療の実際(64)
14/08/22	「がんリハビリテーション」特別講演会(22)
14/10/10	第28回京都がん研究会(88)
14/10/14	手術療法コース講演会(35)
14/10/26	第10回京都乳がん市民公開講座(100)
14/11/16	Seoul-Kyoto Breast Cancer Educational Seminar 2014(20)
14/11/08	第21回京都乳癌コンセンサス会議(81)
14/12/15	5大学連携医療フォーラム(京都大・三重大・滋賀医科大・大阪医科大・京都薬科大)
14/12/15	近畿地区3拠点(大阪大拠点・近畿大拠点・京都大拠点)合同フォーラム(120)
15/02/02	国際共同医師主導治験の今後(32)
15/02/22	多拠点合同(京都府立大学・京都大学)府民公開講座



がんプロ5大学連携医療フォーラム

海外学会、雑誌等への英文発表一覧

京都大学

No.	取組状況等	所属コース	氏名
1	Hematology Risk factors for late-onset neutropenia after rituximab treatment of B-cell lymphoma 2014/8/17	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
2	Bone Marrow Transplantation Monitoring mycophenolate mofetil is necessary for the effective prophylaxis of acute graft versus host disease after cord blood transplantation 2014/11/10	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
3	Therapies for hematological malignancy and associated Duke Univ., National Institute of Health 2014/4/12~4/19	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
4	American Society of Hematology 12/6-12/9 Presepsin(soluble CD14 subtype) Is Secreted from Human Monocytes after Phagocytosis-in Vitro Analyses and Retrospective Cohort Study in Patients with Allogeneic Stem Cell Transplantation	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
5	Internal medicine 「esophageal ulcer due to lymphoma」 2014/11	抗悪性腫瘍薬臨床開発	生田 耕三
6	Pivotal cytotoxic activity of EGFR-lytic hybrid peptide against 5-fluorouracil-resistant esophageal squamous cell carcinoma in vitro Digestive Disease Week 2014/5/2~5/8	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
7	The 7th Annual Meeting of International Liver Cancer Association, A new prognostic model for sorafenib in hepatocellular carcinoma: A multicenter study in Japan. 2014/9	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
8	Liver International. Clinical features associated with radiological response to sorafenib therapy for unresectable hepatocellular carcinoma: A multicenter study in Japan. 2014/5	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
9	Internal Medicine. Prominent hypereosinophilia with disseminated intravascular coagulation as an unusual presentation of advanced gastric cancer. 2014/6	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
10	Druggable oncogene fusions in invasive mucinous lung adenocarcinoma T Nakaoku, K Tsuta, H Ichikawa, K Shiraiishi, H Sakamoto, M Enari, K Furuta, Y Shimada, H Ogiwara, S Watanabe, H Nokihara, K Yasuda, M Hiramoto, T Nammo, T Ishigame, AJ. Schetter, H Okayama, CC. Harris, YH Kim, M Mishima, J Yokota, T Yoshida, T Kohno. Clin Cancer Res. 20(12):3087-93. 2014/6/15	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥 敬史
11	Prevention of Gastric Volvulus-induced Recurrent Acute Pancreatitis by Percutaneous Endoscopic Gastropepy. Nikaido M, Miyamoto S, Iinuma S. Clin Gastroenterol Hepatol. Clin Gastroenterol Hepatol. Published online 2014/9/20	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
12	Systemic Ulcerative Lesions in a Patient With Ischemic Heart Disease Nikaido M, Miyamoto S, Iinuma S. Gastroenterology. 147:e7-e8	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
13	「American journal of gastroenterology "A Polypoid Lesion in the Portal Vein" accept 発表年月日未定」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	平松 由紀子
14	Japanese Journal of Clinical Oncology Clinicopathological features and outcomes of gastric cancer patients with pulmonary lymphangitis carcinomatosa. Jpn J Clin Oncol. 44(9):792-8. 2014/9	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎

15	The 73rd Annual Meeting of the Japanese Cancer Association 「Inflammation contributes to liver tumorigenesis through an acceleration of transcription-coupled mutagenesis」 2014/9/27	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
16	Digestive Endoscopy 「Narrow band imaging for diagnosis of collagenous colitis」 2014/9	抗悪性腫瘍薬臨床開発	森田 敏広
17	European Society for Radiotherapy & Oncology4/4-4/8 Four-dimensional measurement of lung tumours and implanted gold markers by 320-slice CT scan	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
18	American Society for Radiatin Oncology9/14-9/16 Evaluation of dose distribution and tracking accuracy in dynamic tumor-tracking irradiatin for Liver tumors using a gimbaled linac	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
19	Acta Otolaryngologica, Recurrence patterns after postoperative radiotherapy for squamous cell carcinoma of the pharynx and larynx. 2014/10	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
20	European Journal of Radiology, Prediction of clinical outcome after stereotactic body radiotherapy for non-small cell lung cancer using diffusion-weighted MRI and (18)F-FDG PET, 2014/11	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
21	ESTRO 33 オーストリア Impact of pretreatment modified Glasgow prognostic score on survival in SBRT for the lung 2014/4/4~4/7	先端的放射線治療開発	岸 高宏
22	GAP 2014 conference 韓国 Impact of pretreatment modified Glasgow prognostic score on survival in SBRT for the lung 2014/5/1~5/3	先端的放射線治療開発	岸 高宏
23	ASTRO 56th annual meeting 米国 Impact of pretreatment modified Glasgow prognostic score on survival in CRT for locally advanced pancreatic cancer 2014/9/13~9/17	先端的放射線治療開発	岸 高宏
24	European Society for Radiotherapy & Oncology (ESTRO) 33 「Impact of Acuros XB on dose distribution for 4-MV photon beam in head and neck IMRT」 2014/4/4~4/9	先端的放射線治療開発	平田 希美子
25	Japanese Journal of Clinical Oncology 「Clinical Efficacy of Alternating Chemoradiotherapy by Conformal Radiotherapy Combined with Intracavitary Brachytherapy for High-Risk Cervical Cancer」 2014/6	先端的放射線治療開発	平田 希美子
26	San Antonio Breast Cancer Symposium 「DNA methylation-based classification are mostly concordant with intrinsic subtypes of breast cancer」 2014/12/10	手術療法・機器開発	植弘 奈津恵
27	「Annals of Surgery, Laparoscopic Transabdominal with Transdiaphragmatic Access Improves Resection of Difficult Posterosuperior Liver Lesions, (in press)」	手術療法・機器開発	小木曾 聡
28	「Journal of Laparoendoscopic & Advanced Surgical Techniques, Short- and mid-term outcomes after early surgical training in laparoscopic colorectal cancer surgery: trainees'performance has no negative impact, 2014;24:475-83. PMID: 24919163」	手術療法・機器開発	小木曾 聡
29	第39回欧州癌治療学会議(ESMO2014、スペイン、マドリード) 発表タイトル:「Cytokeratin 19, a cancer stem cell marker in hepatocellular carcinoma」 2014/9/29	手術療法・機器開発	河合 隆之
30	2014 AACR annual meeting High neuropilin-1 expression on monocytes is positively associated with trastuzumab-mediated antibody-dependent cellular cytotoxicity of the HER2-overexpressing breast cancer cell line 2014/4	手術療法・機器開発	河口 浩介
31	「World Journal of Gastroenterology, Magnifying narrow-band imaging with acetic acid to diagnose early colorectal cancer.」 2014/11/21	手術療法・機器開発	後藤 規弘

32	Survival outcome of stage I ovarian clear cell carcinoma with lympho-vascular space invasion. Matsuo K, Yoshino K, Hasegawa K, <u>Murakami R</u> , Ikeda Y, Adachi S, Hiramatsu K, Yokoyama T, Nishimura M, Sheridan TB, Enomoto T, Fujiwara K, Matsumura N, Konishi I, Fotopoulou C, Roman LD, Sood AK. Gynecol Oncol. 2014/12/10	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
33	Invasion of uterine cervical squamous cell carcinoma cells is facilitated by locoregional interaction with cancer-associated fibroblasts via activating transforming growth factor-beta. Nagura M, Matsumura N, Baba T, <u>Murakami R</u> , Kharma B, Hamanishi J, Yamaguchi K, Abiko K, Koshiyama M, Mandai M, Murata T, Murphy SK, Konishi I. Gynecol Oncol. 2014/11/28	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
34	Reliable pre-eclampsia pathways based on multiple independent microarray data sets. Kawasaki K, Kondoh E, Chigusa Y, Ujita M, <u>Murakami R</u> , Mogami H, Brown JB, Okuno Y, Konishi I. Mol Hum Reprod. 2014/10/1	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
35	STAT1 Drives Tumor Progression in Serous Papillary Endometrial Cancer. Kharma B, Baba T, Matsumura N, Kang HS, Hamanishi J, <u>Murakami R</u> , McConechy MM, Leung S, Yamaguchi K, Hosoe Y, Yoshioka Y, Murphy SK, Mandai M, Hunstman DG, Konishi I. Cancer Res. 2014/11/15	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
36	IGCS: The 15th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society 「HNF1β confers resistance to oxidative stress of ovarian clear cell carcinoma」 2014/11/8~11/11	がん専門薬剤師養成	天野 泰彰
37	ASN Kidney Week 2014 「Gene expression analysis of tacrolimus-induced tubulointerstitial fibrosis after ischemia/reperfusion injury」 2014/11/14	がん専門薬剤師養成	新家 遥
38	Pharmacogenet Genomics 「Impact of cytochrome P450 3A5 polymorphism in graft livers on the frequency of acute cellular rejection in living-donor liver transplantation.」 2014/7/24	がん専門薬剤師養成	新家 遥
39	PLoS One 「Urinary neutropil gelatinase-associated lipocalin: a useful biomarker for tacrolimus-induced acute kidney injury in liver transplant patients.」 2014/10/20	がん専門薬剤師養成	新家 遥
40	J Am Soc Nephrol 「Conformational change in transfer RNA is an early indicator of acute cellular damage.」 2014/10/25	がん専門薬剤師養成	新家 遥
41	「56th ASTRO: Baseline Correction of a Correlation Model in Infrared Marker-Based Dynamic Tumor Tracking With A Gimbaled Linac」 2014/9	先端医学物理研究者養成	秋元 麻未
42	「Iodine Contrast Improvement with a Novel Detector System using Clinical Computed Tomography Scanner」 AOCMP/SEACIMP Congress 2014/10/23~10/25	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
43	KEK Proceedngs of the 28th Workshop of Radiation Detectors and Their Uses, 「Iodine contrast improvement in energy-resolved computed tomography for a thick phantom using clinical flat panel detector」, in press	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
44	「56th AAPM, Development of expanded field irradiation technique with gimbaled x-ray head」 2014/7	先端医学物理研究者養成	小野 智博
45	「Medical Physics, Development of an expanded-field irradiation technique using a gimbaled x-ray head」 2014/9	先端医学物理研究者養成	小野 智博

46	「Effects of a self-exercise program on serotonin antagonist-induced constipation during chemotherapy in breast cancer patients: a randomized, controlled pilot trial」 2015/2	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子
----	---	-----------------	-------

京都薬科大学

No.	取組状況等	所属コース	氏名
1	Yosuke Kamatsuka, Manami Fukagawa, Takahiro Furuta, <u>Akihiro Ohishi</u> , Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa, Astrocytes, but not neurons, exhibit constitutive activation of P2X7 receptors in mouse acute slices under non-stimulated resting conditions. <i>Biological & Pharmaceutical Bulletin</i> , 37, 1958-1962.	がん薬物療法を専門とする薬学研究者育成コース	大石 晃弘
2	Shohei Segawa, Makiko Shibamoto, Mikayo Ogawa, Saori Miyake, Kaho Mizumoto, <u>Akihiro Ohishi</u> , Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa, The effect of divalent metal cations on zinc uptake by mouse Zrt/Irt-like protein 1 (ZIP1). <i>Life Sciences</i> , 113, 40-44.	がん薬物療法を専門とする薬学研究者育成コース	大石 晃弘
3	Yuuka Kido, Chiyo Kawahara, Yasuko Terai, <u>Akihiro Ohishi</u> , Satoshi Kobayashi, Miki Hayakawa, Yosuke Kamatsuka, Kentaro Nishida, Kazuki Nagasawa, Regulation of activity of P2X7 receptor by its splice variants in cultured mouse astrocytes. <i>Glia</i> , 62, 440-451.	がん薬物療法を専門とする薬学研究者育成コース	大石 晃弘
4	Kentaro Nishida, Yukari Dohi, Yuri Yamanaka, Ai Miyata, Katsunobu Tsukamoto, Miharuru Yabu, <u>Akihiro Ohishi</u> , Kazuki Nagasawa, Expression of adenosine A2b receptor in rat type II and III taste cells. <i>Histochemistry and Cell Biology</i> , 141, 499-506.	がん薬物療法を専門とする薬学研究者育成コース	大石 晃弘
5	C. Matsumura, M. Yamada, S. Fujihara, <u>Y.Chisaki</u> , K. Takahashi, Y. Yano. Indication of adequate transdermal fentanyl dose in opioid switching from oral oxycodone in patients with cancer. <i>Am. J. Hosp. and Palliat. Med.</i> , Published Online.	がん薬物療法を専門とする薬学研究者育成コース	地崎 悠吾
6	<u>Y.Chisaki</u> , S. Noda, D. Hira, S. Morita, Y. Yano, T. Terada. Reduction in gastrointestinal toxicity by gastric secretion inhibitors during S-1 monotherapy for patients with gastric cancer. <i>Biol. Pharm. Bull.</i> , 37: 1158-1161.	がん薬物療法を専門とする薬学研究者育成コース	地崎 悠吾



国内学会、雑誌等への和文発表一覧

京都大学

No.	取組状況等	所属コース	氏名
1	第43回京都造血幹細胞移植研究会 臍帯血移植でのミコフェノール酸によるGVHD予防法の有用性と血中濃度測定的重要性 2014/5/30	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
2	第88回日本感染症学会学術講演会 同種造血幹細胞移植における低ガンマグロブリン血症が予後に与える影響についての検討 2014/6/20	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
3	第28回京都がん研究会 ミコフェノール酸モフェチル(MMF)の臍帯血移植における使用経験 2014/10/10	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
4	第57回日本感染症学会中日本地方会学術集会 同種移植後CMV胃腸炎診断における生検検体での定量PCR法の有用性 2014/10/24	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
5	血液内科 Rituximab投与後の遅発性好中球減少症の特徴と診療上の留意点 2014/4/28	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
6	臨床血液 消化管生検検体での定量PCR法に基づいた、同種移植後サイトメガロウイルス胃腸炎治療介入の有用性	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
7	第100回日本消化器病学会総会、当院における切除不能消化管・膵神経内分泌癌の治療経験 2014/4/26	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
8	分子消化器病 6月号 膵癌の網羅的遺伝子解析の最近の研究で何が明らかになったか	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
9	浸潤性粘液腺がん(Invasive mucinous lung adenocarcinoma)の遺伝子異常	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥 敬史
10	日本消化器病学会近畿支部第101会例会 ブータン王国における内視鏡診療の経験	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
11	medicina アルコール摂取と食道癌 2015/3	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
12	日本消化器関連学会機構(JDDW) 2014/10	抗悪性腫瘍薬臨床開発	森田 敏広
13	第20回癌治療増感研究会 A novel investigational small molecule inhibitor of PLK1, TAK-960, sensitizes therapeutic effect of radiation by inducing mitotic arrest 2014/6/7~6/8	先端的放射線治療開発	井上 実
14	第52回JASTRO生物部会学術大会 A novel investigational small molecule inhibitor of PLK1, TAK-960, sensitizes therapeutic effect of radiation by inducing mitotic arrest 2014/7/11~7/12	先端的放射線治療開発	井上 実
15	第73回日本癌学会学術総会 A novel investigational small molecule inhibitor of PLK1, TAK-960, sensitizes therapeutic effect of radiation by inducing mitotic arrest 2014/9/25~9/27	先端的放射線治療開発	井上 実

16	日本放射線腫瘍学会第27回学術大会 A PLK1 inhibitor, TAK-960, acts as a radiosensitizer by inducing mitotic arrest 2014/12/11~12/13	先端的放射線治療開発	井上 実
17	第309回公益社団法人日本医学放射線学会関西地方会 肺癌放射線治療の予後予測因子としてのMRI拡散強調画像ADC値の有用性の検討 2014/10/25	先端的放射線治療開発	片桐 幸大
18	第10回泌尿器腫瘍放射線(GUTR)研究会 Vero 4DRTとNovalisでの前立腺癌IMRTにおける急性期有害事象の比較検討 2014/8/30	先端的放射線治療開発	中村 清直
19	第27回日本内視鏡外科学会総会 経横隔膜アプローチを用いたドーム下領域に対する腹腔鏡下肝切除術 2014/10/4	手術療法・機器開発	小木曾 聡
20	第27回日本内視鏡外科学会総会 直腸癌手術時の誤認を修正するコツ 2014/10/1~10/5	手術療法・機器開発	笠原 桂子
21	第114回日本外科学会 非腫瘍因子は、肝癌肝移植後再発危険因子か？ 2014/4/3	手術療法・機器開発	金光 瑛彰
22	第114回日本外科学会定期学術集会 肝細胞癌におけるCK19発現・SOX9発現は術後早期再発の予測因子となりうる 2014/4/5	手術療法・機器開発	河合 隆之
23	第4回Global Cancer Genomics Consortium SymposiumGCGC(4thGCGC, 京都) Keratin 19-positive cells possess cancer stem cell properties in human hepatocellular carcinoma 2014/11/15	手術療法・機器開発	河合 隆之
24	第22回日本乳癌学会学術総会 光超音波マンモグラフィを用いた腫瘍内酸素飽和度の初期評価 2014/7/10	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
25	日本臨床外科学会雑誌 骨盤内悪性腫瘍手術時の尿管再建における尿管尿管端側吻合の経験 第75巻10号 →平成26年度 優秀論文賞受賞	手術療法・機器開発	中川 淳
26	第114回日本外科学会定期学術集会 2014/4/3	手術療法・機器開発	中西 保貴
27	第2回サマースクール 新学術領域「免疫4次元空間ダイナミクス」 2014/7/18	手術療法・機器開発	中西 保貴
28	第22回日本乳癌学会学術総会 乳癌術前化学療法施行時におけるMRIの役割と限界 2014/7	手術療法・機器開発	西村 友美
29	第68回京滋乳癌研究会、乳癌術前化学療法施行後のICG蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検の検討 2014/9	手術療法・機器開発	西村 友美
30	第32回日本脳腫瘍病理学会 Bevacizumab治療後に病変再増大を来した放射線性能壊死3例の検討 2014/5/23	手術療法・機器開発	福井 伸行
31	第14回日本術中画像情報学会 ナビゲーションシステムを備えたハイブリッド手術室の導入と活用 2014/7/12	手術療法・機器開発	福井 伸行

32	日本脳神経外科学会第73回学術総会 放射線治療後脳病変に対するBevacizumab適用 Diagnosis, Intervention and Outcome 2014/10/9	手術療法・機器開発	福井 伸行
33	手術、解剖学的コンパートメントに沿った中結腸動脈根部の郭清 2014/6	手術療法・機器開発	星野 伸晃
34	日本乳癌学会 EMT レポーターを用いた乳癌幹細胞標的遺伝子同定の試み 2014/7/10～7/12	手術療法・機器開発	松本 純明
35	第73回日本癌学会学術総会 卵巣癌大網転移巣におけるVEGF発現は腫瘍内MDS浸潤を介して 局所免疫を抑制している 2014/9/25～9/27	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
36	第57回日本腎臓学会学術総会(パシフィコ横浜) 「尿細管上皮細胞障害並びに間質の線維化を反映する候補因子の 探索」 2014/7/4	がん専門薬剤師養成	新家 遥
37	第57回日本腎臓学会学術総会(パシフィコ横浜) 「肝臓移植後の慢性腎臓病発症と尿中WAP four-disulfide core domain protein 2漏出量との関連」 2014/7/4	がん専門薬剤師養成	新家 遥
38	第44回日本神経精神薬理学会 第24回日本臨床精神神経薬理学会合同年会 ケタミンは縫線核 AMPA 受容体及びニコチン性アセチルコリン受容 体を介して前頭前皮質5-HT 遊離を引き起こす 2014/11	がん専門薬剤師養成	西谷 直也
39	第107回日本医学物理学会 Feasibility of Dynamic Tracking Irradiation with Single Radiopaque Marker 2014/4	先端医学物理研究者養成	高宮 大義
40	第16回世界作業療法連盟大会 第48回日本作業療法学会 がん治療後認知機能障害に対するリハビリテーションの効果—ラン ダム化比較試験のシステムティックレビューとメタ分析— 2014/7	がんリハビリテーション法 の開発	華井 明子
41	第28回京都がん研究会 パクリタキセル療法施行時の末梢神経障害に対する治療と予防 2014/10	がんリハビリテーション法 の開発	華井 明子
42	第3回国際シンポジウム 7大学連携先端がん教育基盤創造プラン Effects of a self-exercise program on serotonin antagonist-induced constipation during chemotherapy in breast cancer patients: a randomized, controlled pilot trial 2015/2	がんリハビリテーション法 の開発	華井 明子

京都薬科大学

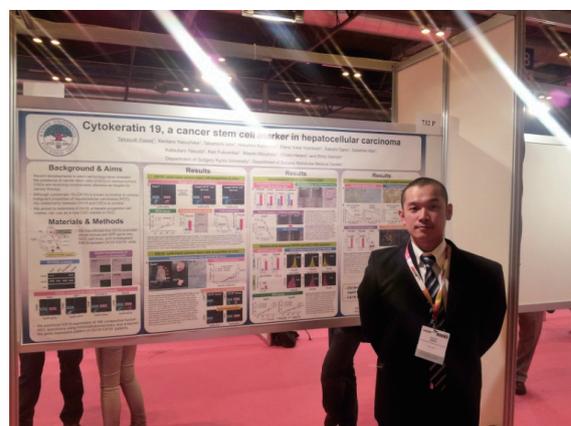
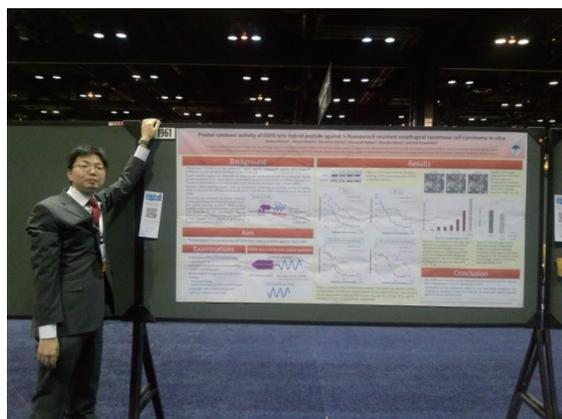
No.	取組状況等	所属コース	氏名
1	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会(京都) Oxaliplatin誘発性味覚障害発症メカニズムの解析—味覚感受性、味受容体の発現及び味細胞数の統合的解析— 2014/10	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
2	第64回 日本薬学会近畿支部総会・大会(京都) ボルテゾミブ投与はマウスの味覚感受性に影響を与える 2014/10	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
3	日本味と匂学会第48回大会(静岡) ボルテゾミブ投与マウスにおける味覚感受性の変化 2014/10	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
4	日本薬学会第134年会(熊本) ラット味蓄におけるadenine nucleotide/nucleoside味覚情報伝達機構の解明 2014/3	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
5	日本薬学会第134年会(熊本) Oxaliplatin投与ラットにおける味覚機能の変化 2014/3	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
6	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都) 神経膠芽腫幹細胞におけるイオン輸送体や関連酵素の発現量解析 2014/10/11	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	高田 哲也
7	第52回日本癌治療学会学術集会(横浜) 5-HT3受容体拮抗剤におけるモンテカルロシミュレーションを用いた薬剤経済評価 2014/8	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	地崎 悠吾
8	第134回日本薬学会年会(熊本) オキシコンチン錠からフェンタニル貼付剤への投与量換算比に影響を及ぼす要因の探索 2014/3	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	地崎 悠吾
9	日本医療薬学会第24回年会(名古屋) LC/QTOF-MSによるG-CSFバイオ後続品の性分析 2014/9	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
10	第73回日本癌学会学術総会(横浜) Down-regulation of C7orf24 repressed cancer cell growth and revealed synergistic effects with anti-cancer drugs. 2014/9	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
11	第64回日本薬学会近畿支部総会・大会(京都) 正常細胞とがん細胞におけるC7orf24発現量の比較およびC7orf24ノックダウン細胞における細胞増殖抑制. 2014/10	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾

海外学会・シンポジウム等参加状況

京都大学

No.	学会・シンポジウム等参加、 教育研修・研究施設視察参加状況	所属コース	氏名
1	第56回米国血液学会議 日程:2014/12/6~2014/12/9 目的地:サンフランシスコ、アメリカ合衆国	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
2	米国がん研究・臨床施設見学、研究内容発表・意見交換 日程:2014/4/14~2014/4/17 目的地:デューク大学、米国国立衛生研究所、ハーバード大学	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
3	アメリカ Mayo clinic, Schulze Center for Novel Therapeutics 日程:2014/10/13~現在	抗悪性腫瘍薬臨床開発	井口 恵里子
4	Digestive disease week 2014 日程:2014/5/2~2014/5/8 目的地:アメリカ合衆国	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
5	米国肝臓学会学術集会 日程:2014/5/2~2014/5/5 目的地:シカゴ、アメリカ合衆国	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
6	欧州放射線腫瘍学会 (ESTRO) 日程:2014/4/4~2014/4/8 目的地:ウィーン、オーストリア	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
7	アメリカ放射線腫瘍学会 (ASTRO) 日程:2014/9/13~2014/9/18 目的地:サンフランシスコ、アメリカ合衆国	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
8	欧州放射線腫瘍学会 (ESTRO) 日程:2014/4/4~2014/4/8 目的地:ウィーン、オーストリア	先端的放射線治療開発	岸 高宏
9	GAP 2014 conference 日程:2014/5/1~2014/5/3 目的地:韓国	先端的放射線治療開発	岸 高宏
10	アメリカ放射線腫瘍学会 (ASTRO) 日程:2014/9/13~2014/9/18 目的地:サンフランシスコ、アメリカ合衆国	先端的放射線治療開発	岸 高宏
11	欧州放射線腫瘍学会 (ESTRO) 日程:2014/4/4~2014/4/8 目的地:ウィーン、オーストリア	先端的放射線治療開発	平田 希美子
12	San Antonio Breast Cancer Symposium 日程:2014/12/9~12/13 目的地:アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	植弘 奈津恵
13	第5回アジア太平洋肝胆膵学会 日程:2015/3/18~3/21 目的地:シンガポール・サンテック シンガポール国際会議展示場	手術療法・機器開発	小木曾 聡
14	第39回欧州癌治療学会議 日程:2014/9/26~9/30 目的地:マドリッド、スペイン	手術療法・機器開発	河合 隆之
15	AACR annual meeting 日程:2014/4/5~4/9 目的地:アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	河口 浩介

16	第39回欧州癌治療学会議 日程:2014/9/26~9/30 目的地:マドリード、スペイン	手術療法・機器開発	多久和 晴子
17	米国癌研究会議 (AACR) 日程:2014/4/5~4/9 目的地:アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
18	米国癌研究会議 (AACR) 日程:2014/4/5~4/9 目的地:アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	西江 万梨子
19	米国癌研究会議 (AACR) 日程:2014/4/5~4/9 目的地:アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	西村 友美
20	第15回国際婦人科癌学会学術集会 日程:2014/11/8~11/11 目的地:オーストラリア	婦人科がん治療の開発	天野 泰彰
21	アメリカ放射線腫瘍学会 (ASTRO) 日程:2014/9/13~2014/9/18 目的地: サンフランシスコ、アメリカ合衆国	先端医学物理研究者養成	秋元 麻未
22	2014アジア・オセアニア医学物理学会 日程:2014/10/23~10/25 目的地:ベトナム	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
23	米国医学物理学会 (AAPM) 日程:2014/7/19~7/24 目的地:オースティン、アメリカ合衆国	先端医学物理研究者養成	小野 智博



国内学会・シンポジウム等参加、教育研修・研究施設視察参加状況

No.	学会・シンポジウム等参加、 教育研修・研究施設視察参加状況	所属コース	氏名
1	第73回日本癌学会学術総会 日程: 2014/9/25~2014/9/27 目的地: 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
2	血液学会 日程: 2014/10/31~2014/11/2 目的地: 大阪府	抗悪性腫瘍薬臨床開発	河田 岳人
3	免疫学会 日程: 2014/12/10~2014/12/12 目的地: 京都府	抗悪性腫瘍薬臨床開発	河田 岳人
4	第73回日本癌学会学術集会 日程: 2014/9/25~2014/9/27 目的地: 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
5	第73回日本癌学会学術総会 日程: 2014/9/25 目的地: 横浜	抗悪性腫瘍薬臨床開発	後藤 知之
6	第73回日本癌学会学術大会 日程: 2014/9/25~2014/9/27	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
7	第10回日本肝がん分子標的治療研究会 日程: 2014/6/21	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
8	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程: 2014/10/23~26 目的地: 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
9	日本癌学会 日程: 2014/9/25~2014/9/27	抗悪性腫瘍薬臨床開発	玉置 将司
10	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程: 2014~10/23~10/26 目的地: 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田 喬之
11	第55回日本肺癌学会学術総会 日程: 2014/11/14~2014/11/16 目的地: 京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥 敬史
12	第73回日本癌学会学術総会 日程: 2014/9/25~2014/9/27 目的地: 横浜	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥 敬史
13	日本消化器病学会近畿支部第101会例会 日程: 2014/10/4	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂 光洋
14	日本消化器病学会総会 2014/4/23~2014/4/26 目的地: 東京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	平松 由紀子
15	日本膵臓学会 日程: 2014/7/11~2014/7/12	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋 研志郎
16	日本臨床腫瘍学会 日程: 2014/7/17~2014/7/19 目的地: 福岡県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
17	第8回日本エピジェネティクス研究会 日程: 2014/5/25~2014/5/27 目的地: 東京都	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓

18	第73回日本癌学会学術総会 日程: 2014/9/25~2014/9/27 目的地: 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 知訓
19	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程: 2014/10/23~26 目的地: 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本 善秀
20	日本癌学会 日程: 2014/9/25~2014/9/27 目的地: 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	水口 綾
21	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程: 2014/10/23~2014/10/26 目的地: 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	牟田 優
22	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程: 2014/10/23~26 目的地: 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	山内 雄揮
23	日本神経内分泌腫瘍研究会 日程: 2014/9/20 目的地: 東京	抗悪性腫瘍薬臨床開発	山内 雄揮
24	肝臓学会教育講演会 日程: 2014/8/10 目的地: 大阪府	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 拓人
25	73回癌学会総会 日程: 2014/9/25~2014/9/26 目的地: 神奈川県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 拓人
26	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程: 2014/10/23~26 目的地: 兵庫県	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡 拓人
27	夏期腫瘍学セミナー 日程: 2014/8 目的地: 熊取	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
28	IAEA regional training course 日程: 2014/10 目的地: 東京	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
29	夏期放射線腫瘍学セミナー学会 日程: 2014/8/2~8/3 目的地: 大阪府	先端的放射線治療開発	石田 祐一
30	第20回癌治療増感研究会 日程: 2014/6/7~2014/6/8 目的地: 高知県	先端的放射線治療開発	井上 実
31	第52回JASTRO生物部会学術大会 日程: 2014/7/11~2014/7/12 目的地: 京都府	先端的放射線治療開発	井上 実
32	第73回日本癌学会学術総会 日程: 2014/9/25~2014/9/27 目的地: 神奈川県	先端的放射線治療開発	井上 実
33	日本放射線腫瘍学会第27回学術大会 日程: 2014/12/11~12/13 目的地: 神奈川県	先端的放射線治療開発	井上 実
34	日本放射線影響学会第57回大会 日程: 2014/10/1~2014/10/3 目的地: 鹿児島県	先端的放射線治療開発	井上 実
35	日本放射線腫瘍学会第43回放射線による制癌シンポジウム 日程: 2014/7/11~2014/7/12	先端的放射線治療開発	片桐 幸大
36	第73回日本癌学会学術総会 日程: 2014/9/25~2014/9/27	先端的放射線治療開発	片桐 幸大

37	京都放射線腫瘍研究会 日程:2014/10/11	先端的放射線治療開発	河村 光栄
38	第63回近畿隣疾患談話会 日程:2014/10/18 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	岸 高宏
39	日本外科学会総会 日程:2014/4	先端的放射線治療開発	後藤 容子
40	日本乳癌学会総会 日程:2014/7	先端的放射線治療開発	後藤 容子
41	第4回 CLiP 01 one day ワークショップ 日程:2014/12/14	先端的放射線治療開発	後藤 容子
42	第42回制癌シンポジウム・第51回日本放射線腫瘍学会生物部会学術大会 日程:2014/7/11~7/12 目的地:京都府	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
43	第73回日本癌学会参加学術総会 日程:2014/9/25~9/27 目的:神奈川県	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
44	第50回日本医学放射線学会秋季臨床大会 日程:2014/9/28 目的地:兵庫県	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
45	日本放射線影響学会第57回大会 日程:2014/10/2~3 目的地:鹿児島県	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
46	関西若手放射線治療研究会(JROG) 日程:2014/5/24 目的地:奈良県	先端的放射線治療開発	中島 良太
47	日本医学放射線学会 関西地方会 日程:2014/6/21 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	中島 良太
48	日本放射線腫瘍学会 医学生・研修医のための放射線治療セミナー 日程:2014/7/5 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	中島 良太
49	日本放射線腫瘍学会 放射線による制癌シンポジウム 日程:2014/7/11~7/12 目的地:京都府	先端的放射線治療開発	中島 良太
50	夏期放射線腫瘍学セミナー 日程:2014/8/2~8/3 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	中島 良太
51	日本放射線腫瘍学会 夏期セミナー 日程:2014/8/30~8/31 目的地:栃木県	先端的放射線治療開発	中島 良太
52	日本癌学会学術総会 日程:2014/9/25~9/27 目的地:鹿児島県	先端的放射線治療開発	中島 良太
53	日本放射線影響学会 日程:2014/10/1~10/3 目的地:鹿児島県	先端的放射線治療開発	中島 良太
54	京都放射線腫瘍研究会 日程:2014/10/11 目的地:京都府	先端的放射線治療開発	中島 良太
55	日本医学放射線学会関西地方会 日程:2014/10/25 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	中島 良太

56	第52回日本癌治療学会学術集会 日程:2014/8/28~2017/8/30	先端的放射線治療開発	中村 清直
57	第307回関西地方会 日程:2014/6/21 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	光吉 隆真
58	第308回関西地方会 日程:2014/10/25 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	光吉 隆真
59	日本放射線腫瘍学会第27回学術大会 日程:2014/12/11~12/13 目的地:横浜	先端的放射線治療開発	光吉 隆真
60	第308回関西地方会 日程:2014/8/25 目的地:栃木県	先端的放射線治療開発	光吉 隆真
61	千里ライフサイエンスセミナー 日程:2014/4/23~5/28 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
62	国際癌治療増感研究会 日程:2014/5/1 目的地:奈良県	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
63	日本中性子捕捉療法学会 日程:2014/7/4~7/6 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
64	原子炉中性子捕捉療法専門研究会 日程:2014/9/29~9/30 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
65	京都放射線腫瘍研究会 日程:2014/10/11 目的地:京都府	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
66	日本外科学会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都市	手術療法・機器開発	池野 嘉信
67	日本消化器外科学会 日程:2014/7/16~7/18 目的地:郡山市	手術療法・機器開発	池野 嘉信
68	日本乳癌学会学術総会 日程:2014/7/10~7/12	手術療法・機器開発	植弘 奈津恵
69	日本癌学会学術総会 日程:2014/9/25~9/26	手術療法・機器開発	植弘 奈津恵
70	第2回腹腔鏡肝切除国際コンセンサス会議 日程:2014/10 目的地:岩手県	手術療法・機器開発	小木曾 聡
71	日本外科学会 日程:2014/4 目的地:京都市	手術療法・機器開発	小木曾 聡
72	第27回日本内視鏡外科学会総会 日程:2014/10 目的地:岩手県	手術療法・機器開発	小木曾 聡
73	第73回日本癌学会 日程:2014/9/25~9/27 目的地:横浜	手術療法・機器開発	奥知 慶久
74	日本外科学会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都府	手術療法・機器開発	奥村 公一

75	近畿外科学会 日程:2014/11/1 目的地:京都府	手術療法・機器開発	奥村 公一
76	第27回日本内視鏡外科学会 日程:2014/10/1~10/5 目的地:岩手県	手術療法・機器開発	笠原 桂子
77	第114回日本外科学会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都市	手術療法・機器開発	金光 瑛彰
78	近畿外科学会外科教育セミナー学会 日程:2014/5/24 目的地:大阪府	手術療法・機器開発	金光 瑛彰
79	京都周術期代謝管理セミナー 日程:2014/6/11 目的地:京都	手術療法・機器開発	金光 瑛彰
80	第114回日本外科学会学術集会 日程:4/3~4/5 目的地:京都	手術療法・機器開発	河合 隆之
81	日本外科学会総会 日程:2014/4	手術療法・機器開発	木曾 末厘乃
82	日本乳癌学会総会 日程:2014/7	手術療法・機器開発	木曾 末厘乃
83	第4回 CLiP 01 one day ワークショップ 日程:2014/12/14	手術療法・機器開発	木曾 末厘乃
84	日本癌学会学術総会 日程:2014/9/25~9/27	手術療法・機器開発	後藤 規弘
85	第22回日本消化器関連学会(JDDW) 日程:2014/10/23~26 目的地:兵庫県	手術療法・機器開発	後藤 規弘
86	第114回日本外科学会定期学術集会 日程:2014/4/3~4/5	手術療法・機器開発	後藤 沙織
87	第196回近畿外科学会 日程:2014/11/1	手術療法・機器開発	後藤 沙織
88	第114回日本外科学会定期学術集会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都府	手術療法・機器開発	多久和 晴子
89	第195回近畿外科学会 日程:2014/5/24 目的地:大阪府	手術療法・機器開発	多久和 晴子
90	第22回日本乳癌学会学術集会 日程:2014/7/10~7/12 目的地:大阪府	手術療法・機器開発	多久和 晴子
91	第73回日本癌学会学術集会 日程:2014/9/27 目的地:横浜	手術療法・機器開発	多代 尚広
92	日本癌学会学術総会 日程:2014/9/25~9/27 目的地:神奈川県横浜市	手術療法・機器開発	出口 靖記
93	第22回日本乳癌学会学術総会 日程:2014/7/10~7/12 目的地:大阪府	手術療法・機器開発	常盤 麻里子
94	近畿外科学会 日程:2014/11/2~11/3 目的地:京都府	手術療法・機器開発	戸田 孝祐

95	日本外科学会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都	手術療法・機器開発	鳥井 雅恵
96	日本乳がん学会 日程:2014/7/10~7/12 目的地:大阪	手術療法・機器開発	鳥井 雅恵
97	日本外科学会学術集会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都府	手術療法・機器開発	中川 淳
98	近畿外科学会 日程:2014/11/1 目的地:京都府	手術療法・機器開発	中川 淳
99	第114回日本外科学会、新学術領域『免疫4次元空間ダイナミクス』第2回サマースクール	手術療法・機器開発	中西 保貴
100	Japan-China-Korea Colorectal Cancer Symposium 日程:2014/9/13~9/14	手術療法・機器開発	錦織 達人
101	日本外科学会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都府	手術療法・機器開発	錦織 達人
102	日本食道学会 日程:2014/7/3~7/4 目的地:東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
103	日本食道学会教育集会 日程:2014/7/4 目的地:東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
104	日本サルコペニア・フレイル研究会 日程:2014/10/19 目的地:東京都	手術療法・機器開発	錦織 達人
105	日本内視鏡外科学 日程:2014/10/2~10/4 目的地:岩手県	手術療法・機器開発	錦織 達人
106	日程:2014/7/10~7/12 目的地:大阪府 第22回日本乳癌学会学術総会参加	手術療法・機器開発	西村 友美
107	第66回京滋乳癌研究会 日程:2014/9/20 目的地:京都府	手術療法・機器開発	西村 友美
108	日本外科学会 日程:2014/4/3~4/5 目的地:京都府	手術療法・機器開発	星野 伸晃
109	日本消化器外科学 日程:2014/7/18 目的地:福島	手術療法・機器開発	星野 伸晃
110	近畿外科学会 日程:2014/11/1 目的地:京都	手術療法・機器開発	星野 伸晃
111	The 4th Global Cancer Genomics Consortium (GCGC) Symposium 日程:2014/11/14~11/15	手術療法・機器開発	松本 純明
112	京都大学医学部医学研究科 腫瘍学講座 腫瘍学セミナー 日程:2014/9/19	手術療法・機器開発	三小田 直
113	第9回日本バイオマテリアル学会関西若手研究発表会 日程:2014/8/5	手術療法・機器開発	山下 幸大

114	大学院教育コース「腫瘍学」コースコロキウム 日程:2014/9/21	手術療法・機器開発	山下 幸大
115	日本婦人科腫瘍学会 日程:2014/7/17~7/19	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
116	日本癌学会 日程:2014/9/25~9/26	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
117	日本産婦人科学会 日程:2014/4	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
118	日本婦人科腫瘍学会 日程:2014/7	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
119	日本癌学会 日程:2014/9	婦人科がん治療の開発	堀川 直城
120	第66回日本産科婦人科学会学術講演会 日程:2014/4/18~4/20 目的地:東京都	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
121	第56回婦人科腫瘍学会 日程:2014/7/17~7/19 目的地:栃木県	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
122	第73回日本癌学会学術総会 日程:2014/9/25~9/27 目的地:神奈川県	婦人科がん治療の開発	村上 隆介
123	第66回日本産科婦人科学会学術集会 日程:2014/4/18~4/20 目的地:東京都	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
124	第56回日本婦人科腫瘍学会学術集会 日程:2014/7/17~7/18 目的地:栃木県	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
125	第73回日本癌学会学術集会 日程:2014/9/25~9/27 目的地:神奈川県	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
126	第24回日本医療薬学会 日程:2014/9/27~9/28 目的地:愛知県	がん専門薬剤師養成	大谷 祐基
127	第44回日本神経精神薬理学会・第24回日本臨床精神神経薬理学会 合同年会 日程:2014/11/20~11/22	がん専門薬剤師養成	西谷 直也
128	第107回日本医学物理学会 日程:2014/4/10~4/13 目的地:神奈川県	先端医学物理研究者養成	秋元 麻未
129	2014医学物理士ミニマム講習会 日程:2014/5/24~5/25、2014/7/26~7/27 目的地:東京	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
130	第26回放射線夏の学校 日程:2014/8/5~8/7 目的地:高知	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
131	第75回応用物理学会 日程:2014/9/17~9/20 目的地:北海道	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
132	第27回日本放射腫瘍学術大会 日程:2014/12/11~12/13 目的地:神奈川県	先端医学物理研究者養成	小野 智博
133	第107回日本医学物理学会 日程:2014/4/10~10/13 目的地:神奈川県	先端医学物理研究者養成	高宮 大義

134	2014医学物理士ミニマム講習会 日程:2014/5/24~5/25、2014/7/26~7/27 目的地:東京	先端医学物理研究者養成	高宮 大義
135	夏期腫瘍学セミナー 日程:2014/8/2~8/3 目的地:大阪	先端医学物理研究者養成	高宮 大義
136	北海道大学・Stanford大学共催サマースクール 日程:2014/8/18~8/22 目的地:北海道	先端医学物理研究者養成	高宮 大義
137	第19回日本緩和医療学会 日程:2014/6/19~6/21 目的地:兵庫県	がんリハビリテーション法の開発	地家 淳史
138	第6回JKがんリハビリフォーラム 日程:2014/9/27 目的地:東京都	がんリハビリテーション法の開発	地家 淳史
139	The 3rd TeamOncology Leadership Academy 日程:2014/11/22~11/24 目的地:東京都	がんリハビリテーション法の開発	地家 淳史
140	緩和医療学会 日程:2014/6/20~21	がんリハビリテーション法の開発	袴田 華菜子
141	日本臨床腫瘍学会 日程:2014/7/17~7/19	がんリハビリテーション法の開発	袴田 華菜子
142	第16回世界作業療法連盟大会・第48回日本作業療法学会 日程:2014/6/18~6/21 目的地:神奈川県	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子
143	がん緩和ケアに関する国際会議 日程:2014/7/11~7/12 目的地:北海道	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子
144	第28回京都がん研究会 日程:2014/10/10 目的地:京都	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子
145	脳腫瘍2014研究会 日程:2014/7/11 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
146	夏季放射線腫瘍学セミナー 日程:2014/8/2~8/3 目的地:大阪府	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
147	京滋食道疾患懇話会 日程:2014/9/5 目的地:京都府	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
148	京都放射線腫瘍研究会 日程:2014/9/11 目的地:京都府	先端的放射線治療開発	宇藤 恵

プロトコル作成への関与一覧

No.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況等(H26年4月～10月)	所属コース	氏名
1	日本造血細胞移植学会ワーキンググループ(GVHD予防法とGVHDワーキンググループ・研究課題:肝臓急性GVHD発症リスクの解析)プロトコル作成	抗悪性腫瘍薬臨床開発	新井 康之
2	胆管ステント留置による総胆管結石治療の前向き試験	抗悪性腫瘍薬臨床開発	上田 樹
3	G389:急性膵炎、慢性膵炎、遺伝性膵炎における膵炎関連遺伝子変異の有無についての検討	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
4	G463:消化器癌における次世代シーケンサーを用いた遺伝子異常の網羅的解析	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
5	G605:固形腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
6	G645:食道発癌における系統発生的関係の検討	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内 伸之
7	多剤抵抗性または投与不能進行再発食道癌に対するXXX療法第Ⅱ相試験について計画書を作成中	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
8	C型慢性肝炎に対する経口抗ウイルス剤療法において治療効果を規定するウイルス側因子の検討(肝癌の最大の原因としてのHCV治療に焦点を当てた臨床研究。プロトコル作成を主として担当。)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 治彦
9	骨髄異形成症候群における核型異常, monosomal karyotypeが予後に与える影響	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田 淳恵
10	肺がん治療への耐性に関わる遺伝子の研究	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥 敬史
11	食道癌の薬物動態に基づく個別化治療を目指した探索的研究 食道癌患者由来腫瘍異種移植片モデルの樹立(2014/12/1倫理委員会承認)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	馬場 希一郎
12	抗がん薬治療中の透析患者における薬物血中濃度測定に関する研究実施計画書	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
13	慢性維持透析患者におけるがん診療に関する多施設共同観察研究実施計画書	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越 太郎
14	食道発癌における系統発生的な関係の検討	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼
15	背景食道に多発ヨード不染を有する食道早期癌内視鏡治療後の重複癌発生抑制に関するpilot study	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼
16	食道癌の薬物動態に基づく個別化治療を目指した探索的研究 のプロトコル作成	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山 顕礼
17	初発孤立性肝細胞癌に対する体幹部定位放射線治療の有効性に関する多施設共同試験	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
18	灌流・拡散強調MRイメージングを用いた放射線治療効果判定に関する検討	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
19	4次元コンビームCTによるマーカーレス追尾照射の実現性に関する研究	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
20	320列CTによる腫瘍と体内金属マーカーの動態解析に関する研究	先端的放射線治療開発	飯塚 裕介
21	乳房温存療法における加速部分乳房照射の安全性と有効性評価のための臨床研究	先端的放射線治療開発	井上 実

22	2014/8疫学研究(疫学研究に関する倫理指針該当研究)実施申請書「転移性脳腫瘍に対する放射線療法の治療成績・有害事象に関する後ろ向き解析」を作成・提出・受理	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
23	「膵癌放射線治療の予後予測因子としてのMRI拡散強調画像ADC値の有用性の検討」に関する疫学研究実施申請書を作成中	先端的放射線治療開発	片桐 幸大
24	G543: 血中循環乳癌細胞に対するエピジェネティクス・マルチマーカーの実用化開発研究	手術療法・機器開発	植弘 奈津恵
25	後ろ向きコホートでは腹腔鏡肝切除に関する複数の研究プロジェクトのプロトコール作成	手術療法・機器開発	小木曾 聡
26	E2126: 肝細胞癌におけるCK19およびSOX9発現と予後に関する研究のプロトコールを作成 4/24に倫理委員会で承認を得た。現在研究を遂行中。	手術療法・機器開発	河合 隆之
27	C546: 局所進行下部直腸癌に対する術前補助化学療法の有効性と認容性の検討	手術療法・機器開発	後藤 沙織
28	胃上部の臨床病期I 期の胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除の有用性に関する研究	手術療法・機器開発	錦織 達人
29	食道切除を施行した胸部食道癌患者を対象とした術前の筋肉量が術後合併症に与える影響	手術療法・機器開発	錦織 達人
30	E2239: 乳癌化学療法時の悪心嘔吐に関する観察研究	手術療法・機器開発	西村 友美
31	G424: 乳癌微小環境形成に関わる分子生物学的機序の生体試料を用いた探索研究	手術療法・機器開発	西村 友美
32	京都大学関連施設における大腸癌治療成績の検討	手術療法・機器開発	星野 伸晃
33	プラチナ抵抗性再発・進行卵巣癌に対するONO-4538を用いた免疫療法に関する第II相試験	婦人科がん治療の開発	天野 泰彰
34	婦人科悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節の術中同定法ならびに微小転移診断法の確立と縮小手術への応用	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
35	婦人科癌におけるDNAメチル化および遺伝子発現の網羅的解析	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
36	プラチナ抵抗性再発・進行卵巣癌に対する抗PD-1抗体を用いた免疫療法に関する第II相試験	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
37	婦人科がんにおけるカルボプラチンを含む癌化学療法レジメンに対するアプレピタント投与についての臨床第II相試験	婦人科がん治療の開発	山ノ井 康二
38	抗がん剤誘発末梢神経障害による上肢機能、ADLおよびQOLの変化に関する前向き観察研究	がんリハビリテーション法の開発	田畑 阿美
39	FP療法による静脈炎に対するステロイド軟膏を用いた予防方法の検討(現在準備中)	がんリハビリテーション法の開発	華井 明子

平成26年度 評価結果表

採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

	項目番号	達成目標	評価覧 (ABCDEで評価)		
			評価者 1	評価者 2	評価者 3
達成目標 1 全グループ共通	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか	A	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	A	A
	3	コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか	A	A	A
	4	がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか 講座の活動状況は	A	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況 開催数と参加者数	B	A	B
	6	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	B	A	A
達成目標 2 全グループ共通	7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数 26年度の新たな整備数	A	A	A
	8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数 26年度の新たな導入数	A	A	A
	9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	A	A	A
	10	コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加人数、開催数、期間等	B	B	B
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	A	A	A
	12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	B	A	B
	13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	B	A	B
	14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	B	A	B
達成目標 3 国際交流	15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	A	A	A
	16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	A	A	A
	17	国際交流プログラムの実施数	A	A	A
	18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	A	A	A
	19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	B	A	A
達成目標 3 連携大学間 職種間連携	20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催 26年度の取組み参加状況	A	A	A
	21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	B	A	A
	22	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	B	B	A
	23	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて	B	A	A
	24	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	A	A	A

達成目標 3 教育改革	25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	B	A	A
	26	多職種連携教育の実施件数・参加者数 多職種連携教育推進の取組み状況	B	A	A
	27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	B	A	A
	28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	B	A	B
達成目標 3 地域貢献	29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	A	A	B
	30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	B	A	B
	31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	A	A	B
	32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	B	A	B
	33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	A	A	A
	34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	B	A	B
	35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	B	A	B
	36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	A	A	B
達成目標 3 研究者養成	37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	A	A	A
	38	国際学会、英文誌への研究論文発表数	A	A	A
	39	学会への研究論文の発表推進への取組み	A	A	A
	40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数	A	A	A
	41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況	A	A	A
	42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A
	43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A

平成26年度 外部評価講評

(評価者1) 全体的な評価、今後の在り方等について

医療チームによる新規の取り組みに意欲とともに先進性を感じるが、広報麵、大学間連携、地域との関係性の深化にやや物足りなさがある。企業との連携推進に関しては、PD-1抗体の治験等独自性を生かしたプランの成果を期待したい。

(評価者2) 全体的な評価、今後の在り方等について

- ①これまでは京都大学の取り組みばかりが突出していたが、連携5大学フォーラムをはじめとして、各大学の人材交流、国際交流プログラム等のとりくみによって、全体としての成果(連携の実)が得られつつある。
- ②また、一部の大学には差があるものの、達成すべき数値目標についても全体としては大きくクリアしており、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的を果たしている。
- ③今後の更なる成果が期待される。

(評価者3) 全体的な評価、今後の在り方等について

本事業は、京都大学を主幹とする5大学がお互いに連携協力しながら、先端のがん研究者および地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成を行う取組である。

平成26年度も引き続き順調に全体的に事業が遂行されているが、A評価は平成24年度14項目、平成25年度33項目から今年度は27項目へとやや減少した。大学院生数は全体で55名と目標を大きく上回っていることは高く評価できるが、全21コースのうち12コースで目標数に達しておらず、コース間の格差が広がっている。また、E-ラーニングや臨床研究への取り組みで改善がみられるものの、地域貢献については地域団体との連携や社会への情報発信の取り組みの減少が目立った。なお、カンファレンスやカンサーボード、学会への参加だけではFDとしては不十分であるので今後改善が必要である。

今後も、京都大学がリーダーシップを発揮しつつ大学間の連携をより深めることによって、本事業のアクティビティがさらに向上することを期待する。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科 **がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局**

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL 075-753-4654 FAX 075-753-9495

E-mail 060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp